

1 スポーツを取り巻く社会情勢の変化

(1) 健康寿命の延伸と人生100年時代の到来

日本人の健康寿命*は世界最高水準であり、更なる延伸が予想されています。こうした背景を受け、政府は「人生100年時代構想会議」を立ち上げ、幼少期から高齢者まで全ての人々が元気に活躍し続けることのできる社会の実現を目指しています。人生100年時代の基盤は一人ひとりの心身の健康なからだであり、スポーツは市民の健康づくりや仲間づくりに寄与する活動として期待できます。

(2) 高齢化の進展

本市の人口は、令和4年1月1日時点で約5万6千人となっています。福生市総合計画(第5期)で示されている将来人口推計によると、令和7年には約5万5千人、令和27年には約4万6千人と減少していく見込みです。将来年齢3区分人口(日本人人口)の比率をみると、65歳以上の老年人口比率は平成27年の23.7%から令和27年の34.0%に増加することが見込まれています。

(3) 多様性を認め合うまちの実現

「共生社会」とは、これまで必ずしも十分に社会参加できるような環境になかった障害のある人等が、積極的に参加・貢献していくことができる社会であり、国は、このような社会を目指すことを最も積極的に取り組むべき重要な課題と捉えています。

これからは、スポーツに親しむことのできる場においても、性別、年齢、ライフスタイルの違いや障害の有無、国籍や性自認、性的指向等の違いを超え、多様性を尊重し合い、人権が守られることが重要です。

(4) 国連によるSDGsの採択

SDGs(持続可能な開発目標)は、平成27年9月の国連サミットで採択された令和12年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するため、健康や教育、ジェンダー平等など17のゴール・169のターゲットから構成され、「地球上の誰一人として取り残さない」ことを目指しています。

スポーツは健康、教育、コミュニティ強化などに寄与するものとして期待されています。スポーツ庁は、このSDGsの達成にスポーツで貢献しようという姿勢を見せています。

(5) 国際スポーツ大会のレガシー

令和元年にはラグビーワールドカップ2019(TM)が開催され、開幕前の予想を大きく上回る盛り上がりを見せました。また、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会は新型コロナウイルス感染症の影響により、1年延期した上で安心・安全に大会を開催できるよう様々な対応がとられた結果、令和3年に開催されました。

大会を通じて、スポーツに対する機運や観戦・応援に対する意識、スポーツボランティアによる大会支援など、人々の関心が高まる機会となりました。また、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会においては、障害者スポーツを通じた多様性や共生社会への理解なども深まることとなったといえます。

(6) 新型コロナウイルス感染症の影響

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、運動不足による健康二次被害、「新しい生活様式」の対応の必要性、スポーツ施設の利用制限、学校運動部活動やアマチュアのスポーツ大会・イベントの延期・中止などが生じています。国が示した「新しい生活様式」を留意、実践しながらスポーツに親しむことが求められています。

(7) ICTなどのデジタル技術革新の進展

ICT*、AI(人工知能)*、VR・AR*などの技術開発が急速に進展しています。これらの技術は、新しい産業の創出・発展や企業の生産性向上のみならず、人々の働き方やライフスタイル、健康管理、教育など、市民の生活に関わるあらゆる分野での活用が期待されています。

スポーツ分野においても、個人・法人を問わないトレーニング動画のオンライン配信や、VR・ARを活用した新たなスポーツなど、多様な楽しみ方の創出が期待できます。

2 国・東京都の政策動向

(1) 国の動向

国は、平成27年に策定された「第2期スポーツ基本計画」に基づき日本のスポーツ政策を推進しており、スポーツを「する」・「みる」・「支える」参画人口の拡大を目指し、成人の週1日以上スポーツ実施率を65%以上にすることを目標に掲げています。また、スポーツ環境の基盤となる「人材」と「場」の充実として、指導者やボランティアの育成・確保、総合型地域スポーツクラブの質的充実、スポーツ施設やオープンスペースの有効活用等のスポーツに親しむ場の確保を推進しています。

令和3年4月には、スポーツ庁のスポーツ審議会において、第3期スポーツ基本計画の部会が設置され、令和4年3月末の策定を目指し審議が進められています。第3期スポーツ基本計画では、特に踏まえるべき観点として、障害のある人、女性、子ども、高齢者等、多様な主体のスポーツへの参画や、行政、スポーツ団体、学校、民間事業者との連携・協力、デジタル技術をはじめとした新技術やデータの活用などが挙げられています。

(2) 東京都の動向

東京都は、障害者スポーツの推進を含めた「東京都スポーツ推進総合計画」を平成30年に策定し、スポーツを通じた「健康長寿の達成」、「共生社会の実現」、「地域・経済の活性化」を施策の柱として位置付け、スポーツ振興施策を推進しています。

スポーツ実施の促進にあたっては、都民のスポーツへの関心・行動の段階により施策が異なると考え、「関心喚起策」、「実行促進策」、「継続支援策」の3つの視点による施策を展開しています。

3 福生市のスポーツ環境

(1) スポーツ団体の活動状況

●福生市体育協会加盟団体 27 団体(チーム数・会員数) 令和3年度時点

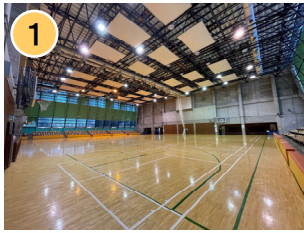
No.	加盟団体	チーム数	会員数	No.	加盟団体	チーム数	会員数
1	陸上競技協会	—	39	15	ゲートボール連盟	3	11
2	柔道連盟	—	34	16	インディアカ連盟	—	72
3	軟式野球連盟	30	623	17	グラウンドゴルフ協会	5	86
4	弓道連盟	—	92	18	少年軟式野球連盟	6	114
5	ソフトボール連盟	22	413	19	ミニテニス連盟	—	19
6	剣道連盟	—	156	20	少林寺拳法連盟	—	20
7	スキー連盟	—	25	21	バウンドテニス協会	—	20
8	バドミントン連盟	—	93	22	早朝野球連盟	4	59
9	空手道連盟	—	52	23	テニス協会	—	48
10	バレーボール連盟	—	63	24	ゴルフ協会	—	156
11	卓球連盟	9	174	25	ビーチボール連盟	4	35
12	ソフトテニス連盟	—	39	26	太極拳連盟	12	196
13	バスケットボール連盟	—	45	27	スポーツダーツ協会	—	33
14	サッカー連盟	23	766				



都民体育大会 総合開会式 (体育協会集合写真)

(2) スポーツ施設等の状況

市内には、中央体育館をはじめとする市立体育館(3か所)、市営競技場(1か所)、野球、ソフトボールなどの球技場、グラウンド(8か所)、テニスコート(4か所)、屋外プール(1か所)、ゲートボール場(3か所)などのスポーツ施設があります。また、市内19か所の公園に健康遊具を設置しています。



中央体育館



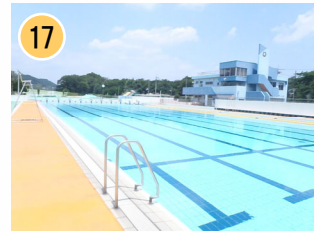
ネッツ多摩
S & Dフィールド



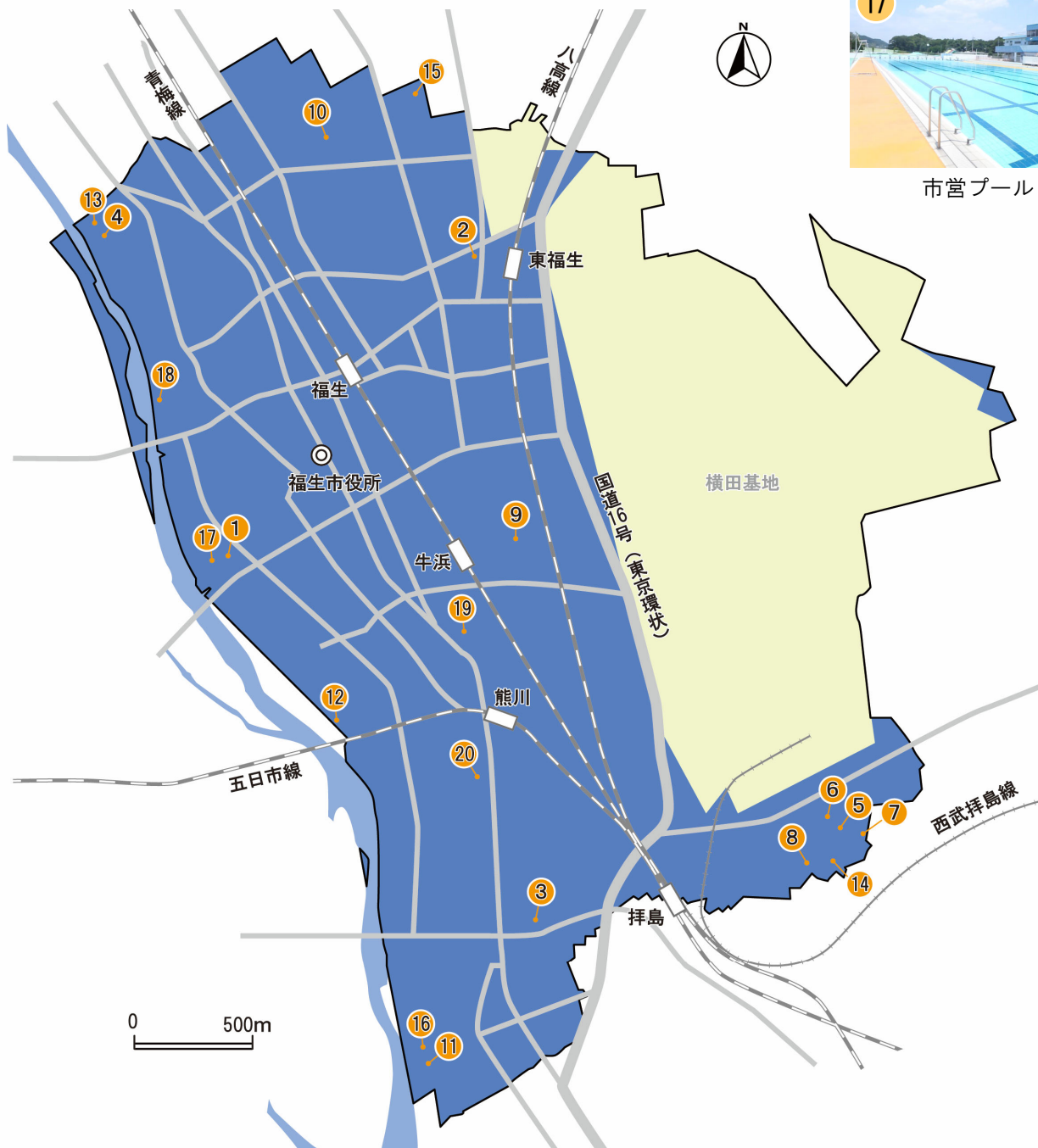
福生野球場



南公園テニスコート



市営プール



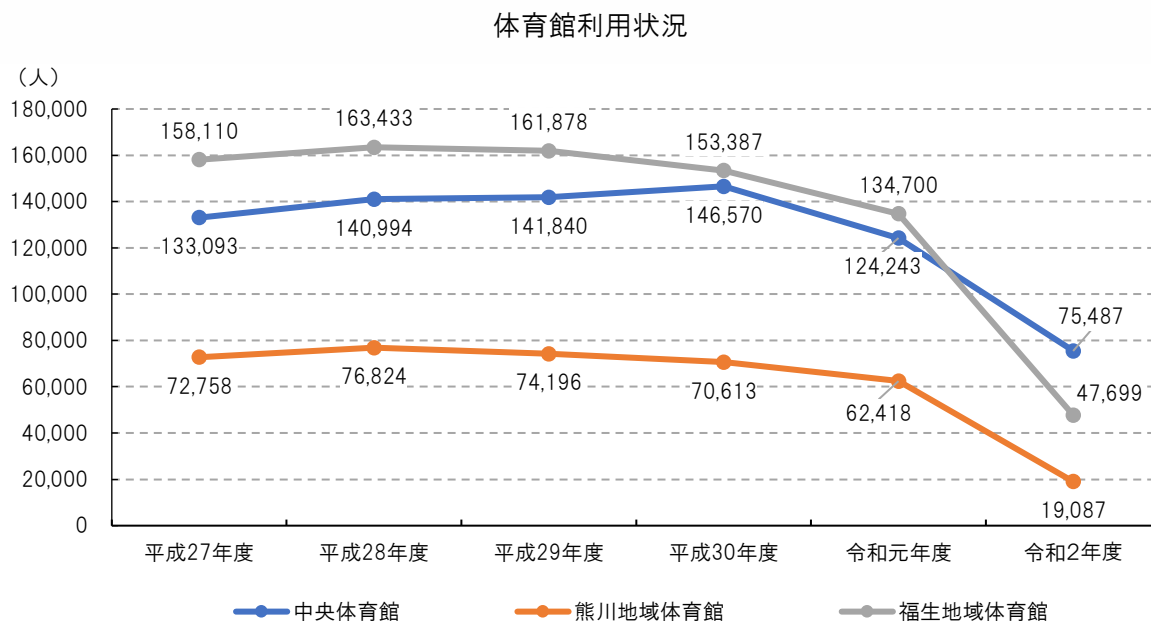
No.	施設名	所在地	概要
		利用可能時間	
市立体育館			
1	中央体育館	北田園二丁目9-1	主競技場、柔道場、剣道場、弓道場、卓球場、トレーニング室、多目的室、第1会議室、第2会議室、第3会議室、和室 バドミントン、インディアカ、ビーチボール、バスケットボール、バレーボール、卓球、剣道、柔道、空手道、弓道、ダンス
		9:00~22:00	
2	福生地域体育館	武蔵野台1-8-7	第1体育室、第2体育室、トレーニングルーム、会議室、プレイルーム バドミントン、バスケットボール、インディアカ、ビーチボール、卓球、トレーニング
		平日9:00~23:00 土日祝8:00~22:00	
3	熊川地域体育館	熊川 380-7	第1体育室、第2体育室、会議室、トレーニングスペース バドミントン、バスケットボール、インディアカ、ビーチボール、卓球、ダンス
		9:00~22:00	
市営競技場			
4	ネット多摩S&Dフィールド (市営競技場)	福生 3232	陸上競技場兼サッカー場 1面 サッカー、アルティメット、ソフトボール、陸上競技、グラウンドゴルフ
		8:30~21:30	
野球、ソフトボールなどの球技場、グラウンド			
5	福東第一少年野球場	熊川 1603	少年野球場 1面 少年野球、ソフトボール
		8:30~17:00	
6	福東第二少年野球場	熊川 1601	少年野球場 1面 少年野球、ソフトボール
		8:30~17:00	
7	福東球技場	熊川 1603	球技場 1面 少年野球、ソフトボール 軟式野球、少年サッカー
		8:30~17:00	
8	福東グラウンド	熊川 1610	グラウンド 1面 少年軟式野球、ソフトボール、グラウンドゴルフ
		8:30~17:00	
9	福生野球場	牛浜 162	野球場 1面 軟式野球、硬式野球(制限有り)、ソフトボール、少年サッカー(外野部分)、グラウンドゴルフ
		8:30~21:30	

No.	施設名	所在地	概要
		利用可能時間	
10	加美平野球場	加美平1-21	野球場 1面
		8:30~17:00	軟式野球、ソフトボール
11	南公園グラウンド	南田園1-1-1	グラウンド 1面
		8:30~17:00	軟式野球、ソフトボール、 少年サッカー、グラウンドゴルフ
12	多摩川中央公園グラウンド	北田園一丁目先	グラウンド 1面
		8:30~17:00	少年軟式野球、ソフトボール
テニスコート			
13	ネッツ多摩S&Dフィールド (市営競技場)テニスコート	福生 3232	全天候型(ハードコート) 4面
		9:00~21:30	テニス、ソフトテニス
14	福東テニスコート	熊川 1608・1620	砂入人工芝 6面
		9:00~17:00	テニス、ソフトテニス
15	武蔵野台テニスコート	武蔵野台1-30	砂入人工芝 4面
		9:00~21:30	テニス、ソフトテニス、フットサル
16	南公園テニスコート	南田園1-1-1	全天候型(ハードコート) 3面
		9:00~17:00	テニス、ソフトテニス
屋外プール			
17	市営プール	北田園2-8-4	50m、25m、スライダープール(滑り 台付プール)、幼児プール
		9:00~18:00	
ゲートボール場(高齢者専用)			
18	永田ゲートボール場	福生 594-4	740.44 m ²
19	第五市営ゲートボール場	熊川 978	684.11 m ²
20	清水坂ゲートボール場	熊川 689-35	775.73 m ²
健康遊具のある都市公園			
	市内 19 公園(原ヶ谷戸どんぐり公園 外)		

(3) スポーツ施設の利用状況

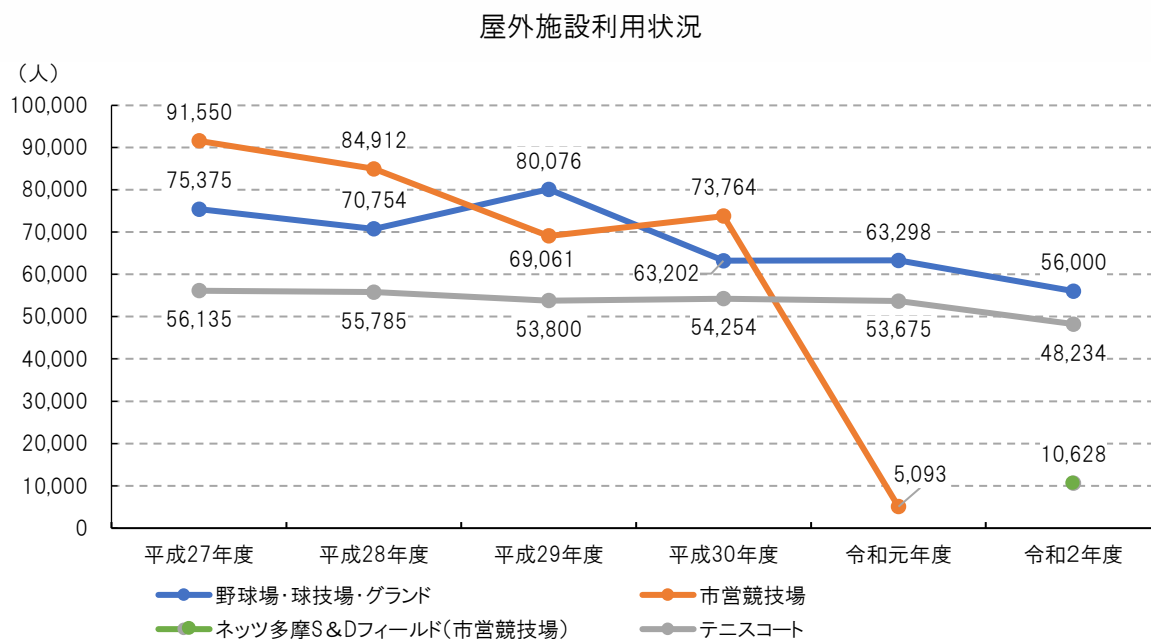
ア 体育館延べ利用者数

平成27年度から平成30年度まで中央体育館は微増傾向、熊川地域体育館と福生地域体育館は微減傾向にありました。また、令和元年度・2年度については、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から利用時間の制限等の対応を行ったために減少しています。



イ 屋外施設延べ利用者数

平成27年度から平成30年度までは野球場・球技場・グラウンド、市営競技場、テニスコートのいずれも減少傾向にありました。令和元年度・2年度については、台風や新型コロナウイルス感染症の影響でさらに減少しています。



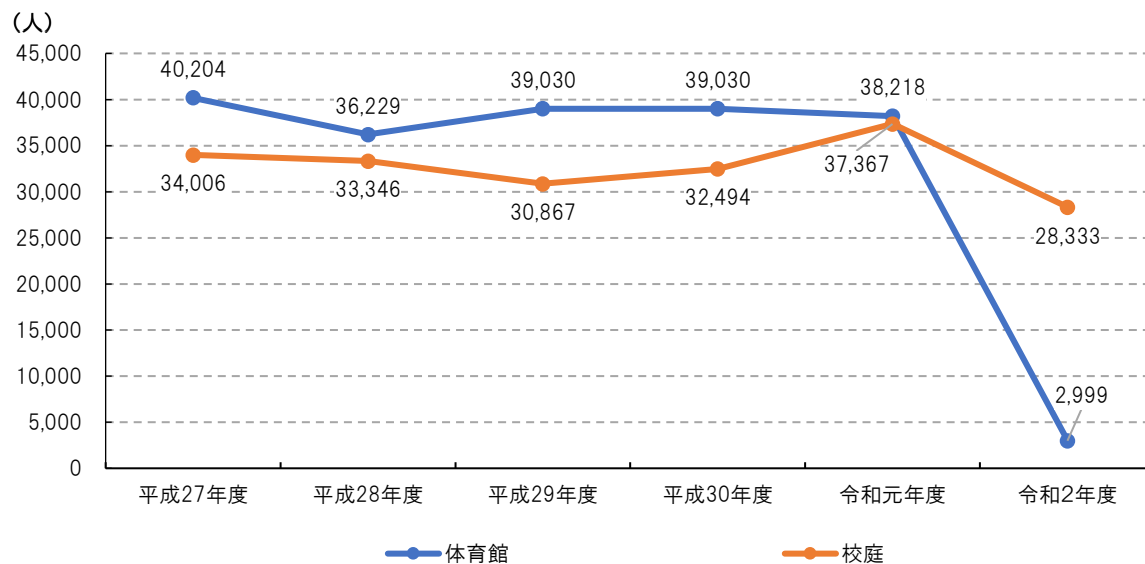
※市営競技場は令和元年10月より利用を休止し、人工芝への改修工事を行った。翌令和2年6月に「ネット多摩S&Dフィールド」としてリニューアルオープンした。

※令和元年10月に台風のために被災した多摩中央公園グラウンドは令和2年9日まで、南公園テニスコートは令和2年11月まで、南公園グラウンドは令和3年1月まで復旧工事のために利用を休止した。

ウ 学校体育施設利用状況

本市の小学校7校、中学校3校全ての体育館・校庭において学校開放を行っています。平成27年度から令和元年度にかけては、体育館、校庭ともに多少増減はあるものの、横ばいで推移していましたが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で大きく減少しています。

学校体育施設利用状況



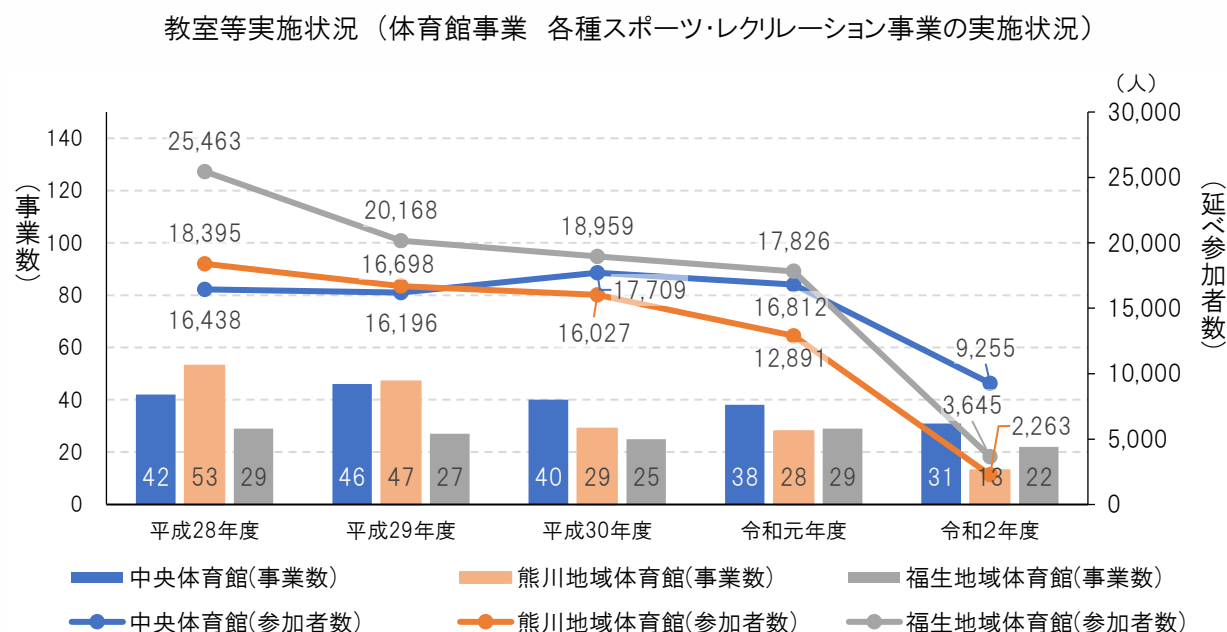
(4) スポーツ教室・イベント等の実施状況

ア 市主催のスポーツ教室等

本市では、市民の健康・体力づくりの増進を図るため、春・秋・新春のウォーキングや身障者水泳体験教室、健康まつり、ブラインドサッカーファンフェスタを実施しています。令和元年度には、春、秋、新春のウォーキングには延べ116人が参加し、健康まつりのスポーツ推進課ブースには313人、ブラインドサッカーファンフェスタには500人が参加しました。

そのほか、中央体育館、熊川地域体育館、福生地域体育館において、子どもから高齢者までを対象としたトレーニングや体操、ダンスなど様々な教室を実施しています。

なお、令和元年度からは新型コロナウイルス感染症の影響を受け、教室やイベントの開催に際しては、回数や人数の制限などの対応を取ったこともあり、参加者数は減少しています。



イ 福生市体育協会加盟団体主催の大会・教室

本市では、福生市体育協会に委託し、健康増進・スポーツ普及事業を実施しています。令和元年度は生活習慣病予防を目的とし、現役世代(30歳から50歳代まで)、高齢世代(60歳以上)を対象に健康体力づくり教室を企画・実施し、全60回開催で延べ参加人数647人が参加しています。

子どもの体力・運動能力の向上を目的とし、幼児及び小・中学生を対象に様々なスポーツの体験を通じた基礎運動能力の育成とスポーツを好きになる子どもの育成事業として、キッズ体操教室、チャレンジ do スポーツ教室、夏休み子どもスポーツ体験塾を実施しています。令和元年度には全110回開催し、延べ参加人数1,335人が参加しました。

また、福生市民総合体育大会では、各加盟団体が参加し、毎年29種目の競技を実施しています。令和元年度には4,562人が参加しました。

なお、令和元年度からは新型コロナウイルス感染症の影響を受け、大会や教室の開催に際しては、開催の自粛や人数の制限などの対応を講じたこともあり、参加者数は減少しています。

4 福生市のスポーツ・運動に関するこれまでの取組

本市では、平成23年度に策定した「福生市スポーツ推進計画2012」に基づき、スポーツ施策を推進してきました。施策の柱に沿ってこれまでの取組について整理します。

(1) 「するスポーツ」の推進

- ア 子どもたちがスポーツに親しんでいくことができるように、市内各体育館等において幼児期から成長に合わせたスポーツや体を動かす機会の提供を行ってきました。幼児期には運動することが好きになるような基礎的な体操教室やダンス教室など、小学生には自分に合うスポーツを知ることができるよう、いろいろなスポーツの体験をはじめ、福生市体育協会の加盟団体によるジュニア育成地域推進事業として展開する教室など、中学生には部活動の技術指導やサポート等を実施しています。
- イ 一般市民のスポーツの活動機会の充実を図るために、ラジオ体操をはじめ、スポーツイベントでの仲間と交流しながら気軽に楽しめるニュースポーツ*の普及、体力測定による自分の健康や体力の状態を知る機会を設けたほか、体育施設だけでなく公民館や地域会館などの身近な施設を利用した教室事業等を実施しています。
- ウ 障害のある人向けのスポーツ推進の取組としては、各体育館での指導員による支援や受入れ体制の充実、ブラインドサッカー大会やパラスポーツ体験教室を通じた、障害のある人とない人の交流機会の提供などがあります。
- エ 全ての市民が自分に合った目標をもって取り組むことや、仲間と一緒に取り組むことの意義を感じられるよう、競技レベルにかかわらず全ての市民参加の権利を有し、誰もが成果発表や記録の確認ができる場として、全29の種目からなる福生市民総合体育大会を開催しています。この大会では、スポーツのみならず、総合開会式において、生バンドや中学校吹奏楽部等の演奏による入場行進を行うなど様々な連携や参加機会の創出も行っています。
- オ 都民体育大会等への代表選手の派遣、町会・自治会や社会福祉協議会等の団体による市民運動会の支援などを実施しており、多様な機会を通じてスポーツの成果発表の場を創出しています。

これまでの取組を踏まえた課題

- ✓ 年代や性別にかかわらず、誰もが楽しめることを重視したスポーツ機会の提供を行っていますが、全国的にスポーツ実施率が低いといわれている働き盛り世代や子育て世代、女性や高齢者など、個々の状況に対応した働きかけは十分であるとは言えません。
- ✓ 本市は全国的に見ても外国人の割合が高い自治体となっており、外国人も含めスポーツの機会の充実を図っていく必要があります。

(2) 「みるスポーツ」の推進

- ア スポーツに関する情報提供として、市内で開催するスポーツ大会や講習・教室の情報を広報ふっさ、市や各施設のホームページ、「ふっさ情報メール」、施設内でのポスター掲示等で広く周知しました。また、各体育館において、指導員やトレーナーによる個別相談を行っていることを踏まえ、相談窓口などの開設を検討しています。
- イ スポーツ観戦としては、平成25年に開催された第68回国民体育大会(東京国体)で、福生市は成年女子ソフトボールの会場となり、応援・観戦のための来場者は、3日間で延べ2万人を超えました。期間中には、試合と試合の間に、小学校や学童クラブ等によるアトラクションを催し、大会を盛り上げました。
- ウ 市内体育施設を活用したブラインドサッカー大会の誘致、市民総合体育大会の開催等によりスポーツ観戦機会を確保し、スポーツ観戦の促進を図りました。
- エ 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に関連し、令和元年度には女子マラソンのオリンピックメダリストである有森裕子氏を招致したトークイベントを開催し、大会機運の向上を図りました。
- オ 令和3年度には、福生市と北海道の登別市、滋賀県の守山市からなる『四五都市連絡協議会』のスポーツ交流事業として大会観戦を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止としました。その際に検討したパブリックビューイング*の実施などの手法を今後の施策に生かすことが考えられます。

これまでの取組を踏まえた課題

- ✓ 情報発信はスポーツに興味をもったり、活動するためのきっかけになるだけでなく、「する」・「みる」・「支える」活動の全てに関わるため、より効果的に推進できるようにしていくことが必要です。また、市民へ情報を発信するだけでなく、活動につなげるサポートも含めて進めていくことが必要です。
- ✓ 今後も大きな大会やプロスポーツ大会の招致を行いながら、市内のスポーツへの興味や関心を高めていきますが、そのような観戦機会は限られているため、「みるスポーツ」をより一層推進するために、身近な観戦の機会を含めて検討していくことが必要です。



有森裕子氏トークイベント



平成25年国民体育大会
ソフトボール競技(福生野球場)

(3) 「支えるスポーツ」の推進

- ア 福生市体育協会の主催により、ジュニア選手を育成する指導者に向けた講演会を年に1回実施しました。また、福生市体育協会加盟団体においても、指導者の育成を実施しています。
- イ スポーツ指導者の養成、活動支援の強化のための指導者登録制度について、日本スポーツ協会の公認スポーツ指導者の資格を活用したい市民、あるいは指導を受けたい市民には、同協会が行っている公認スポーツ指導者マッチング制度を案内し、福生市内に限定することなく、人材の有効活用に繋げています。
- ウ スポーツボランティアについては、東京2020オリンピック聖火リレーボランティアや東京パラスポーツスタッフ認定制度の募集や案内について情報発信を行いました。
また、国民体育大会やブラインドサッカー大会等イベントにおいてスポーツボランティアの募集を行い、イベントの成功に尽力してもらいました。
- エ 平成27年に福生市スポーツ推進審議会より福生市教育委員会に対し提言がなされ、平成30年には総合型地域スポーツクラブとして「福生市地域スポーツクラブ『タマリバ』」が設立されました。
- オ 福生市体育協会が開催している指導者連絡会及びジュニア選手を育成する指導者に向けた講演会においては、団体の活動やリスクのマネジメント、スポーツ障害防止等について取り上げるなど、スポーツ団体のマネジメント力の向上に努めています。
- カ 市内各体育館においては、健康運動指導員やトレーナーによるスポーツ障害の防止や成長段階にある子どもの健康教育などのために、専門的な知識を踏まえた指導ができる体制を整えています。

これまでの取組を踏まえた課題

- ✓ スポーツ指導者は、市民が安全かつ豊かなスポーツライフを送るためには欠かせない存在であるため、指導者の育成と活躍の場を設けることが必要です。
- ✓ これまで活動してきたスポーツボランティアや本市のスポーツ環境を支えてきた担い手に対して、継続的かつ安定的に活動できるような働きかけが重要です。

(4) スポーツ施設の整備

- ア 市民が身近にスポーツを実施することができるよう、体育施設だけでなく、公民館や地域会館等を活用したスポーツ教室等を実施し、ウォーキングや健康づくり運動に使える健康遊具等を配置した公園や緑道の整備を行っています。
- イ 利用者のニーズに対応した施設の安全性・利便性・快適性を保ちつつ、ライフサイクルコストを考慮した施設の維持管理により、長寿命化を図りました。
- ウ 誰もが使いやすい快適な施設にするため、市営競技場の改修工事の際にバリアフリー化を図りました。
- エ スポーツ施設については、全施設で「福生市環境マネジメントシステム(F-e)」に基づく取組を徹底するなど、環境に配慮した取組を推進しました。
- オ 平成28年度に策定された福生市公共施設等総合管理計画や、令和2年度に策定された福生市個別施設計画に則った計画的な施設管理を検討しています。
- カ スポーツ施設の利用率の向上、より多くの市民がスポーツに親しむプログラムの展開等、民間ノウハウの活用を円滑にするために、地域体育館と市営プールには指定管理者制度を導入しました。その他の施設についても導入を検討しています。
- キ 平成26年度の体育施設等予約システムの導入により、スポーツ施設の予約や抽選がシステム上で可能となりました。更なる利便性の向上や事務の効率化を図るため、学校施設の追加や申請の電子化、キャッシュレス決済導入の検討を進めています。
- ク 学校体育施設の利用促進について、平日は17時以降に開放する規定となっていますが、校長の許可のもと、長期休業期間の平日の日中でも開放するなど、利用時間の拡大に努めました。申請の手続きが簡易化できるように、現在検討を進めています。また、限られた学校体育施設の有効利用を促進するため、利用団体が情報交換等を行える場を提供しています。

これまでの取組を踏まえた課題

- ✓ スポーツ施設やその他スポーツを実施することができる場の整備を継続しつつ、市民の利用満足度や利用しやすさを高める取組を実施していく必要があります。

5 市民のスポーツ活動に関する実態 ※アンケート調査結果のまとめ

令和3年7月に、児童・生徒(市立小中学校に通う小学5年生、中学2年生)と一般市民(16歳以上)を対象に「スポーツ・運動に関するアンケート調査」を実施しました。

(1) 調査実施概要

	児童・生徒向け調査	一般市民向け調査
調査対象	市立小中学校に通う小学5年生、中学2年生	福生市在住の満16歳以上の市民
標本数	749人	2,000人
標本抽出	全数	住民基本台帳からの層化無作為抽出
調査方法	タブレット端末による電子回答	郵送より配付・回収
調査期間	令和3年7月21日～8月8日	
有効回収数	546人	661人
有効回収率	72.9%	33.1%

※アンケートでは過去1年間の実情について質問していますが、新型コロナウイルス感染症の影響により、学校活動や市の体育施設利用が制限されていた環境下であったことに留意ください。

※児童・生徒向け調査は緑色、一般市民向け調査は青色のグラフで表示しています。

※東京都及び全国調査との比較について以下の調査を参照しています。

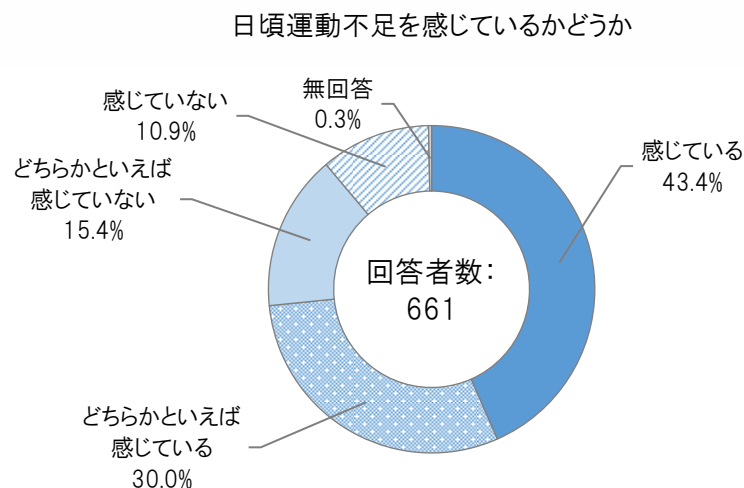
東京都：(スポーツの実施頻度)「都民生活に関する世論調査」(令和2年9月調査)

(その他)「都民のスポーツ活動・パラリンピックに関する世論調査」(平成30年9月実施)

全 国：令和2年度「スポーツの実施状況等に関する世論調査」

(2) 健康観に関する意識

一般市民において、運動不足を感じている(「感じている」と「どちらかといえば感じている」の合計)人は、4人に3人程度となっており、多くの人が運動不足を感じているといえます。



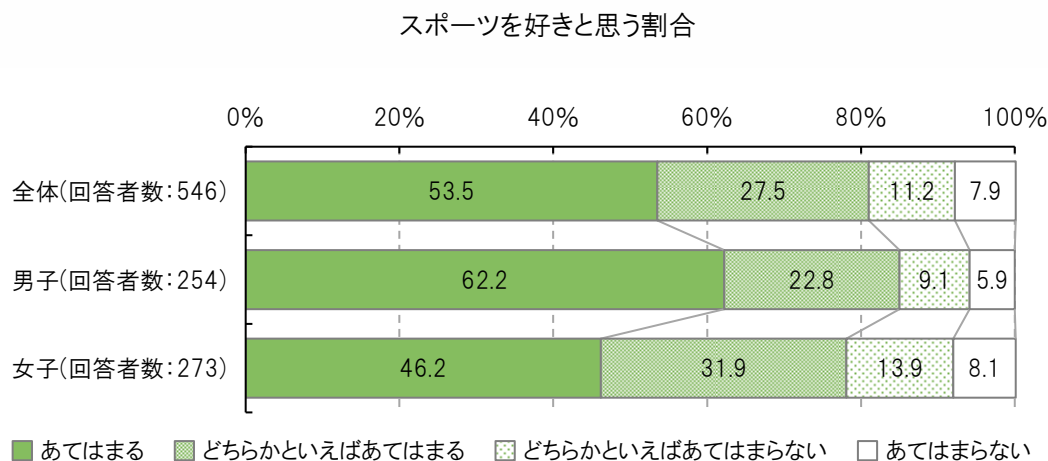
*一般市民向け調査

(3) スポーツ実施状況

ア 子どものスポーツ実施状況

(ア) スポーツを好きと思う割合

スポーツを好き(「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」の合計)と思う子どもは8割を超えており、男子の方が女子よりも高くなっています。

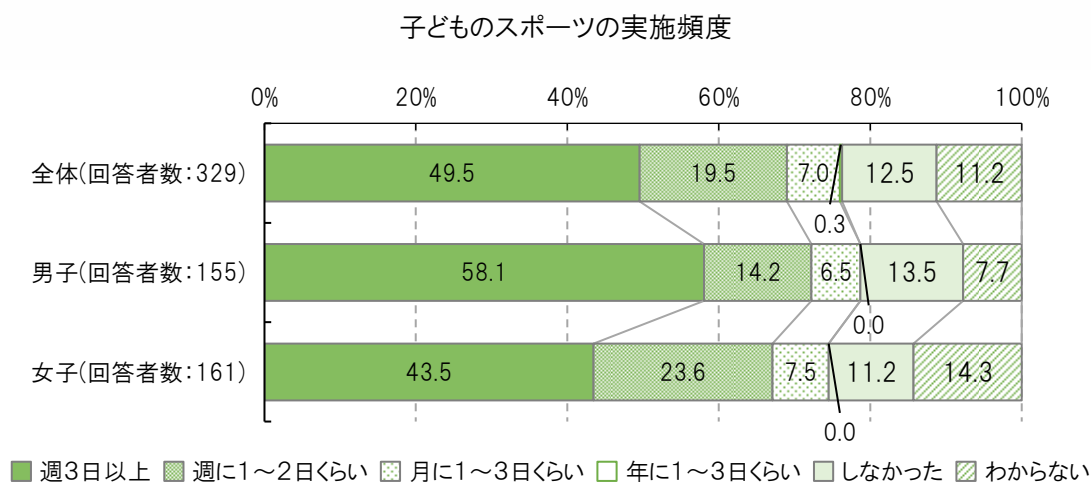


* 児童・生徒向け調査

(イ) スポーツの実施頻度

過去1年間において、体育の授業のほかに、1日30分以上スポーツを実施した頻度をみると、週1日以上の割合(「週3日以上」と「週1~2日くらい」の合計)は、約7割となっています。また、性別で見ると、スポーツを好きと思う割合と同様に男子の方が女子よりも高くなっています。

「週3日以上」は、男子の方が女子よりも高くなっていることから、小学生でのクラブ活動や中学生での運動部活動により、男子の方が、高頻度でスポーツに取り組んでいると考えられます。



※全体は、実施頻度で無回答を除き、1日30分以上「しなかった」の回答者を足した値とし再集計しました。

* 児童・生徒向け調査

(ウ) スポーツの実施頻度における分類の定義と割合

過去1年間のスポーツの実施状況を頻度別に「定期実施層」、「不定期実施層」、「非実施層」の3つに分類しました。各分類の定義と割合は下表のとおりです。

スポーツ実施頻度における分類の定義と割合

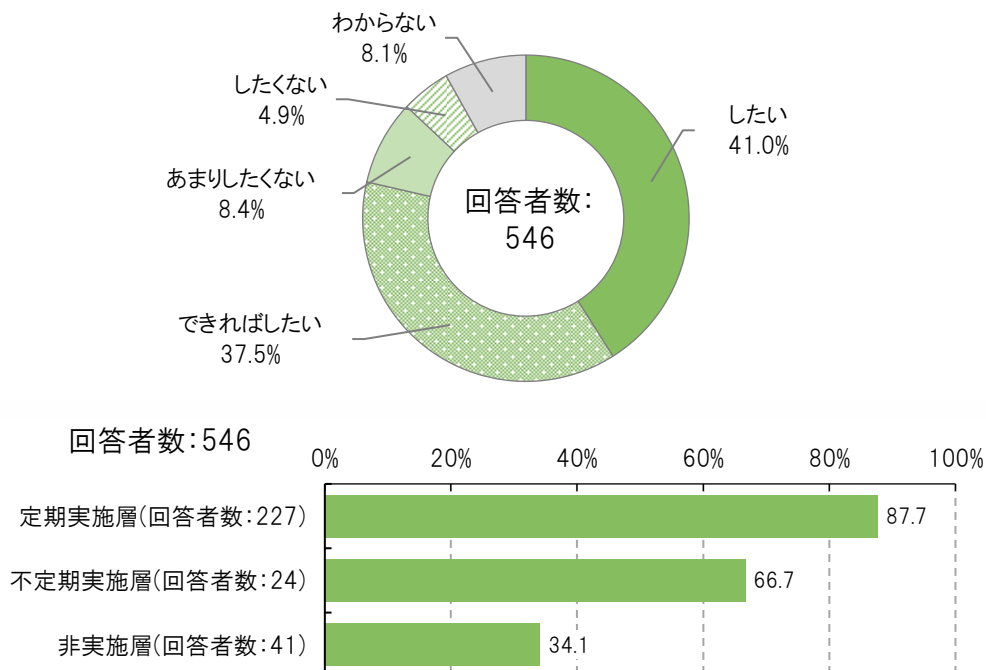
分類	定義	割合
定期実施層	過去1年間で体育の授業のほかに 1日30分以上スポーツを実施しており、 かつ週に1日以上スポーツを実施した人	69.0%
不定期実施層	過去1年間で体育の授業のほかに 1日30分以上スポーツを実施したが、 週に1日未満の実施であった人	7.3%
非実施層	過去1年間で体育の授業のほかに 1日30分以上スポーツを実施しなかった人	12.5%

* 児童・生徒向け調査

(エ) 大人になってからもスポーツをしたい子どもの割合

大人になってからもスポーツをしたい子どもの割合（「したい」と「できればしたい」の合計）と思う子どもは約8割を占めています。また、スポーツの実施頻度別に、大人になってからもスポーツをしたい子どもの割合をみると、「定期実施層」、「不定期実施層」、「非実施層」の順に高くなっており、子どもの頃からスポーツに親しむことは、大人になってもスポーツを継続したいという意識を育むことにつながるといえます。

大人になってからもスポーツをしたい子どもの割合（全体、スポーツ実施頻度別したい割合）



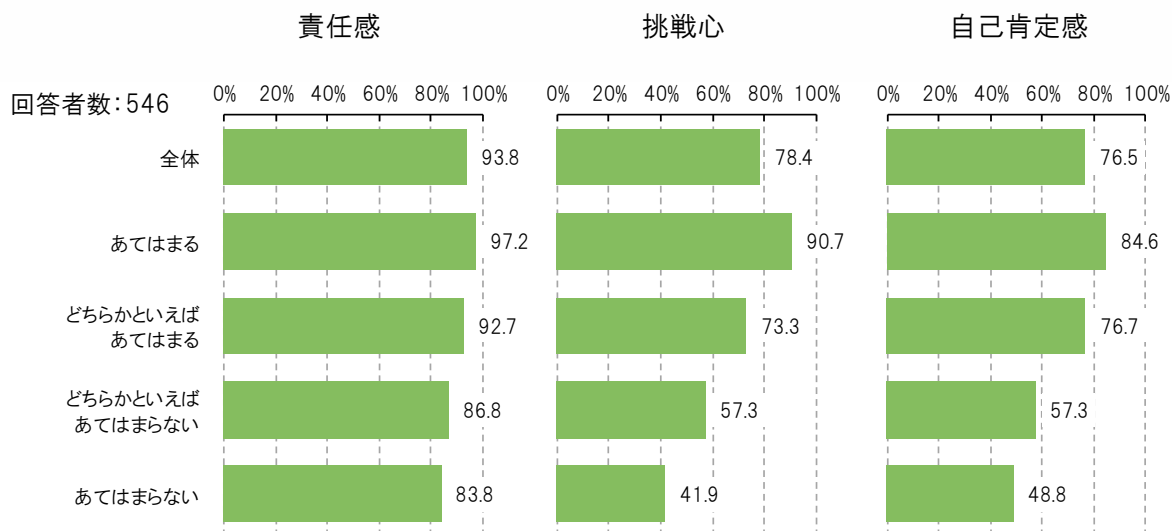
* 児童・生徒向け調査

(オ) スポーツが好きな子どもの責任感・挑戦心・自己肯定感

下のグラフは、スポーツや運動を好きと思う度合いによる、責任感(ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある)、挑戦心(難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦する)、自己肯定感(自分にはよいところがある)を比較したものです。

全てにおいてスポーツや運動を好きな度合いが高いほど、比例して責任感、挑戦心、自己肯定感が高くなっています。

スポーツや運動を好きと思う度合いによる責任感・挑戦心・自己肯定感



* 児童・生徒向け調査



【参考】子どもの体力の状況(令和3年度)

性別・学年別にみた子どもの「体力合計点平均値」を東京都と比べると、中学2年生の男子、小学5年生、中学2年生の女子は福生市が上回っています。また、種目別では、「握力」において、全ての層で福生市の方が上回っています。

子どもの体力の状況

<小学5年生>

…東京都より上回っている数値

		体力合計点 平均値 (点)	握力 (kg)	上体起こし (回)	長座体前屈 (cm)	反復横とび (点)	20m シャトルラン (回)	50m走 (秒)	立ち幅とび (cm)	投げ ソフトボール (m)
男子	福生市	52.7	16.8	19.1	34.8	39.4	41.2	9.2	147.6	20.1
	東京都	53.3	16.4	19.2	34.0	40.9	45.9	9.2	152.8	20.1
女子	福生市	56.9	16.7	18.8	39.6	39.4	37.8	9.3	144.0	14.1
	東京都	55.1	16.2	18.4	38.8	39.1	36.2	9.5	146.0	12.6

<中学2年生>

		体力合計点 平均値 (点)	握力 (kg)	上体起こし (回)	長座体前屈 (cm)	反復横とび (点)	持久走 (秒)	20m シャトルラン (回)	50m走 (秒)	立ち幅とび (cm)	投げ ハンドボール (m)
男子	福生市	41.3	30.4	26.1	42.4	52.3	388.6	75.9	8.0	201.0	19.9
	東京都	40.1	28.6	25.8	42.4	51.5	396.6	76.6	7.9	196.6	20.1
女子	福生市	49.8	24.0	22.1	46.0	48.1	295.5	49.5	8.8	175.9	13.2
	東京都	47.6	23.2	22.4	45.5	46.3	295.5	51.8	8.8	168.1	12.3

注1) 中学校は20m シャトルランか持久走(男子1500m、女子1000m)のどちらかを選択して実施します。

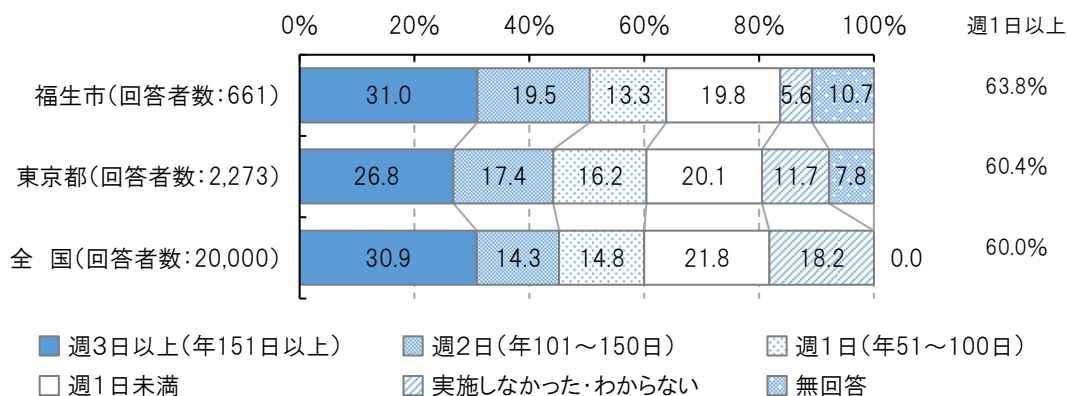
出典: 福生市立学校の体力向上策 第2次改定(令和4年3月)
「令和3年度東京都統一体力テストにおける福生市の結果」

イ 大人のスポーツ実施状況

スポーツの実施頻度

スポーツの実施頻度として、「週1日以上」（「週3日以上」、「週2日以上」、「週1日」の合計）は63.8%となっており、東京都と全国よりもやや高くなっていますが、国が第2期スポーツ基本計画で掲げる目標値（65.0%）よりは低くなっています。また、「週3日以上」は31.0%となっており、東京都や全国よりも高くなっています。

過去1年間のスポーツ実施状況における国・東京都との比較



*一般市民向け調査

【前計画の指標と評価】

前計画の修正後期策定時と比べると、いずれの指標についても現状値は高くなっており、特に「週2日以上の実施率」と「週3日以上の実施率」は目標値を上回っています。

指標	修正後期策定時 平成28年度	目標値 令和3年度	現状値 令和3年度
週1日以上の実施率	50.2%	65%以上	63.8%
週2日以上の実施率	38.7%	50%以上	50.5%
週3日以上の実施率	24.4%	30%以上	31.0%

過去1年間のスポーツの実施状況を頻度別に「定期実施層」、「不定期実施層」、「非実施層」の3つに分類しました。各分類の定義と割合は下表のとおりです。

全体では「定期実施層」が6割を超えて最も高く、「不定期実施層」が約2割、「非実施層」が1割未満となっています。

スポーツ実施頻度における分類の定義と割合

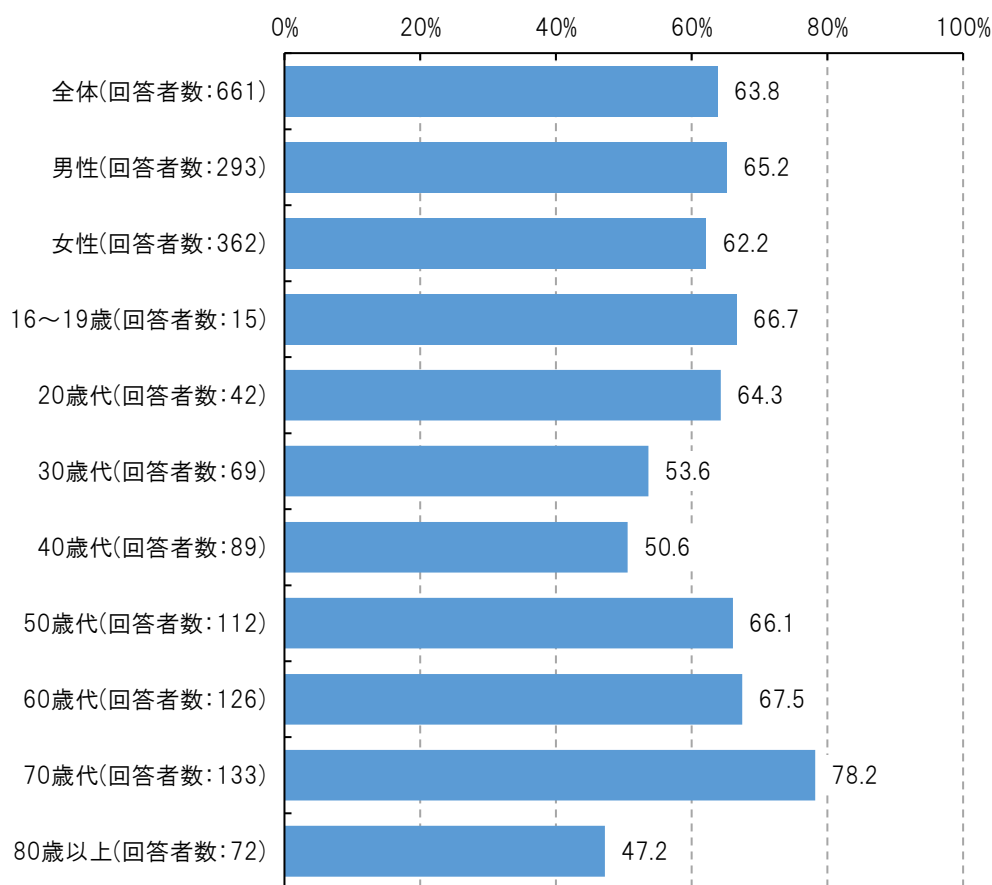
分類	定義	割合
定期実施層	過去1年間で週に1日以上スポーツを実施した人	63.8%
不定期実施層	過去1年間で1度でもスポーツを実施したが、週に1日未満に留まった人	19.8%
非実施層	過去1年間で1度もスポーツを実施しなかった人	5.6%

*一般市民向け調査

一般市民の週1日以上スポーツ実施率を性別にみると、男女では大きな差が認められませんでした。一方、年代別にみると、30～40歳代は他の年代と比べると低くなっており、国や東京都と同様の傾向を示しています。

スポーツを実施しなかった人に対して理由を尋ねたところ、「仕事・勉強が忙しくて時間がない」、「新型コロナウイルス感染症拡大の影響のため」が上位に挙げられています。

性別と年代別等に見た一般市民の週1日以上スポーツ実施率



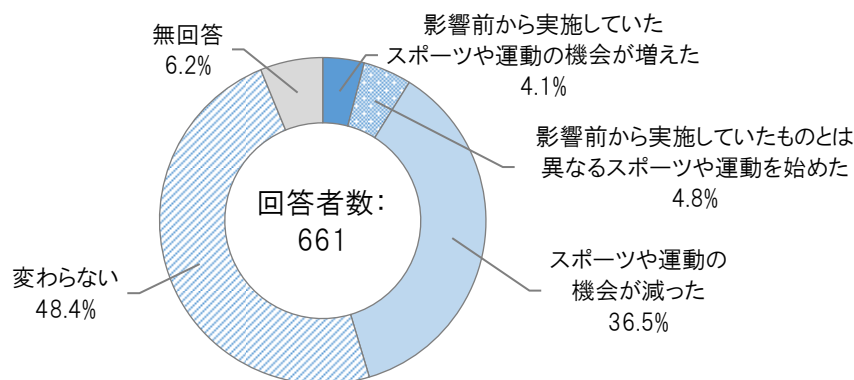
*一般市民向け調査

(4) 新型コロナウイルス感染の影響

ア 新型コロナウイルス感染症によるスポーツや運動の実施状況への影響

新型コロナウイルス感染症によるスポーツや運動の実施状況への影響について、「変わらない」(48.4%)が最も高く、次いで「スポーツや運動の機会が減った」(36.5%)となっています。

新型コロナウイルス感染症によるスポーツや運動の実施状況への影響

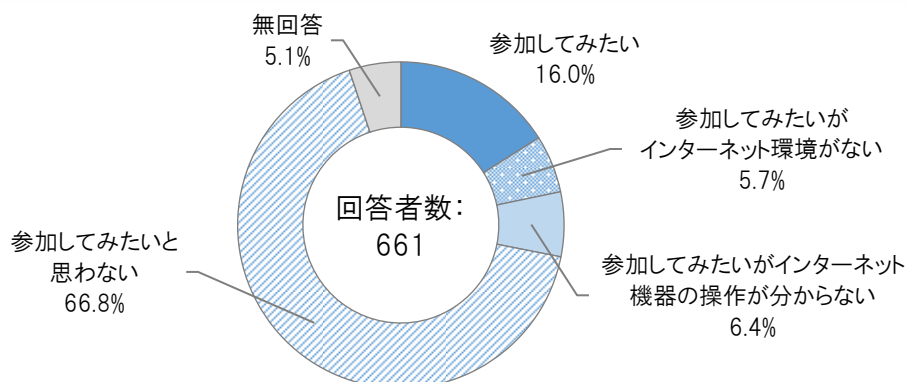


* 一般市民向け調査

イ オンラインによるスポーツ・運動の実施への参加意向

オンラインによるスポーツ・運動の実施への参加意向について、「参加してみたいと思わない」が66.8%の一方、参加に肯定的な層(「参加してみたい」と「参加してみたいがインターネット環境がない」と「参加してみたいがインターネット機器の操作が分からない」の合計)は28.1%となっています。

オンラインによるスポーツ・運動の実施への参加意向

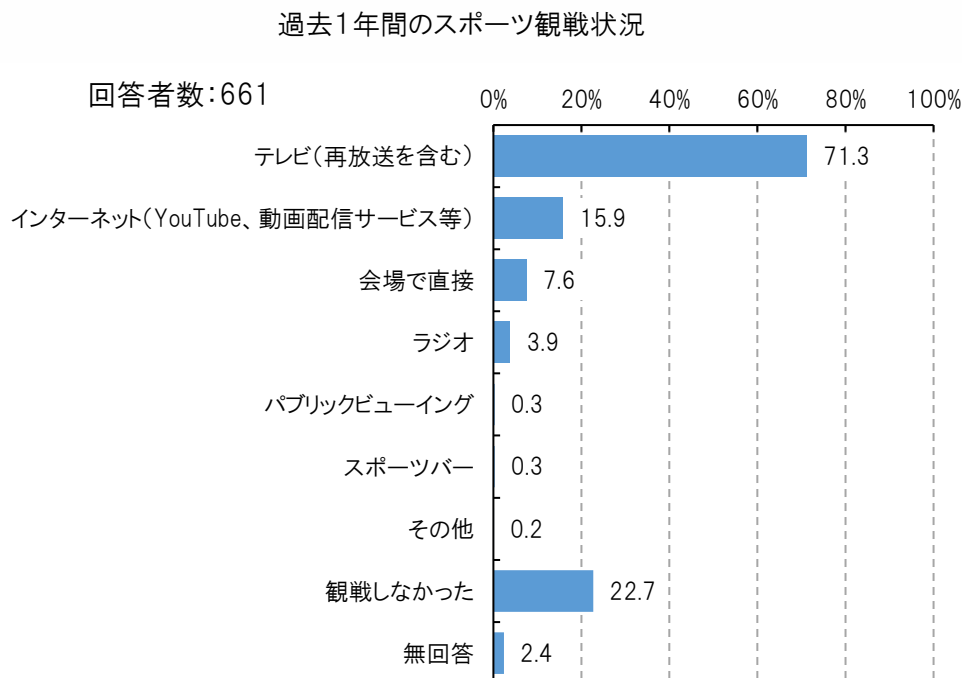


* 一般市民向け調査

(5) スポーツ観戦状況

ア 過去1年間のスポーツ観戦状況

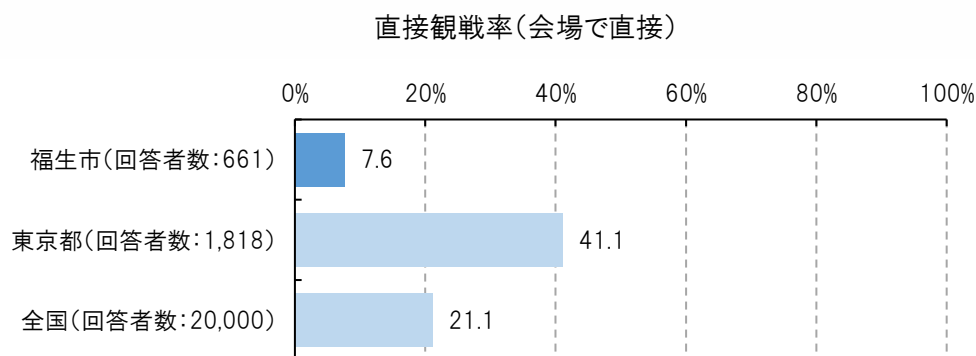
過去1年間のスポーツ観戦状況を見ると、「テレビ(再放送を含む)」(71.3%)が最も高く、次いで「観戦しなかった」(22.7%)、「インターネット(YouTube、動画配信サービス等)」(15.9%)となっています。



* 一般市民向け調査

イ 直接観戦率

本市の過去1年間に会場で直接スポーツを観戦した人の割合(以下「直接スポーツ観戦率」という。)は、東京都、全国と比べて低くなっています。



* 一般市民向け調査

【前計画の指標と評価】

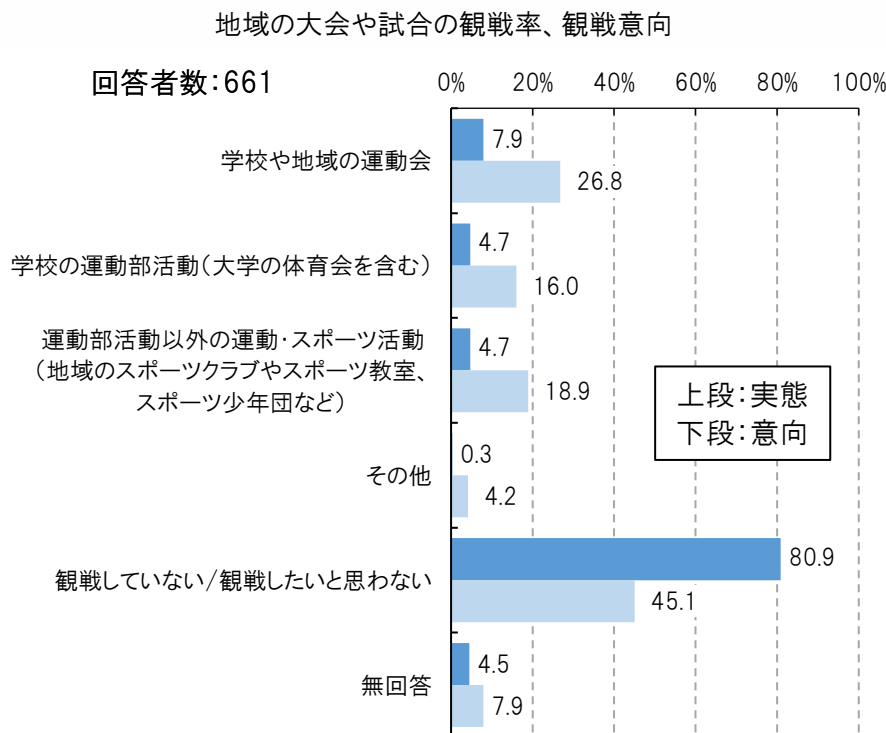
前計画の修正後期策定時(22.8%)と比べると、現状値(7.6%)は 15.2 ポイント低くなっています。ただし、この結果は新型コロナウイルス感染症の影響を強く受けていると考えられます。

指標	修正後期策定時 平成 28 年度	目標値 令和3年度	現状値 令和3年度
直接スポーツ観戦率	22.8%	30%以上	7.6%

ウ 地域の大会や試合の観戦率

地域の大会や試合の観戦状況を見ると、「観戦していない」(80.9%)が最も高く、「学校や地域の運動会」、「学校の運動部活動」、「運動部活動以外の運動・スポーツ活動」の観戦率は1割未満にとどまっています。

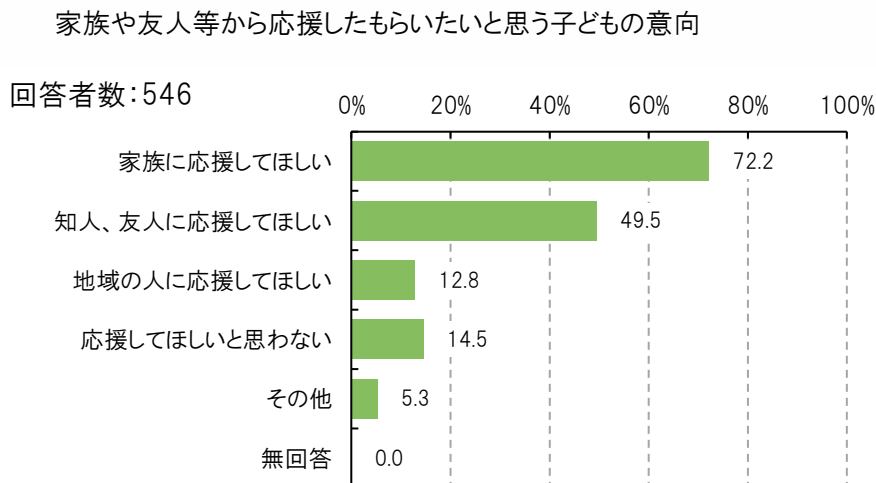
今後の観戦意向をみると、「学校や地域の運動会」が2割台半ば、「運動部活動以外の運動・スポーツ活動」が2割弱、「学校の運動部活動」が1割台半ばとなっています。



*一般市民向け調査

エ 家族や友人等から応援してもらいたいと思う子どもについて

子どもが家族や友人、知人あるいは地域の人に自分が出場している大会や試合を応援してほしいかについて、「家族に応援してほしい」(72.2%)が最も高く、次いで「知人、友人に応援してほしい」(49.5%)となっています。



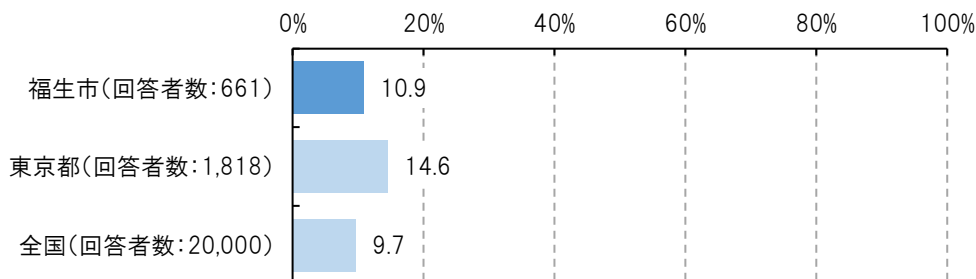
*児童・生徒向け調査

(6) スポーツボランティア実施状況

ア スポーツボランティア実施率

本市の過去1年間のスポーツボランティア実施率は、東京都より低く、全国と同水準となっています。今後実施したいスポーツボランティアの活動内容を見ると、「大会やイベント会場での選手やチームの応援」が約1割となっています。

過去1年間のスポーツボランティア実施率における国・東京都との比較



* 一般市民向け調査

【前計画の指標と評価】

スポーツ指導者養成講習の受講者数は目標値を上回っています。市独自の登録制度に代えて、日本スポーツ協会の公認スポーツ指導者の資格を活用したい市民、あるいは指導を受けたい市民には、同協会が行っている公認スポーツ指導者マッチング制度を案内し、福生市内に限定することなく、人材の有効活用に繋げています。同様に、スポーツボランティアにおいても多くの人が参加し、支援をいただきました。

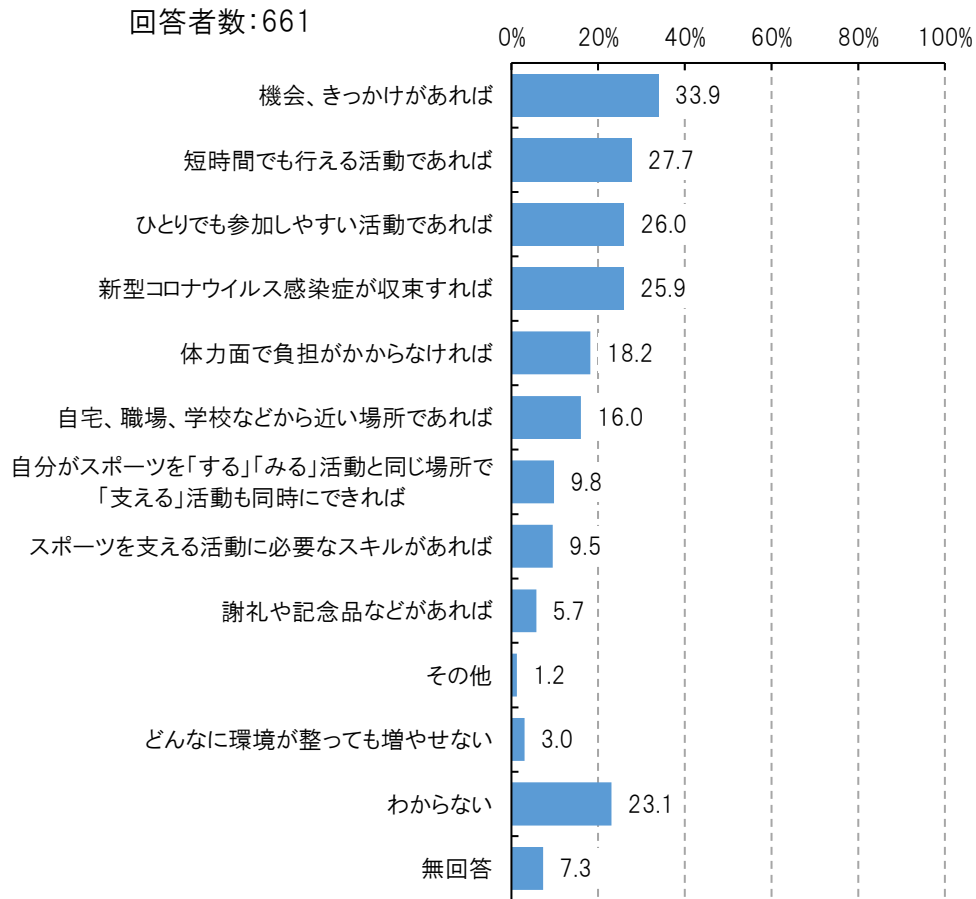
指標	修正後期策定時 平成 28 年度	目標値 令和3年度	現状値 令和3年度
スポーツ指導者 養成講習受講者数 ※	—	50 人以上/年	(平成24年から 令和2年9年間 平均は約93人) 令和2年 実績25人/年
スポーツ指導者登録者数	—	200 人以上	—
スポーツボランティア 登録者数	—	200 人以上	・平成25年 国民体育大会 (ソフトボール競技) 335人 ・平成26～令和元年 ブラインドサッカーファン フェスタ計30人 ・令和3年東京2020 オリンピック聖火リレー 434人(中止)

※福生市体育協会が開催しているジュニア育成地域推進事業の参加者数。
新型コロナウイルス感染症対策のため、令和2年度は規模を縮小して開催。

イ スポーツボランティアを増やすための環境

スポーツボランティアを増やすための環境として、「機会、きっかけがあれば」(33.9%)が最も高く、次いで「短時間でも行える活動であれば」(27.7%)、「ひとりでも参加しやすい活動であれば」(26.0%)、「新型コロナウイルス感染症が収束すれば」(25.9%)となっています。

スポーツや運動を支える人を増やすための環境整備

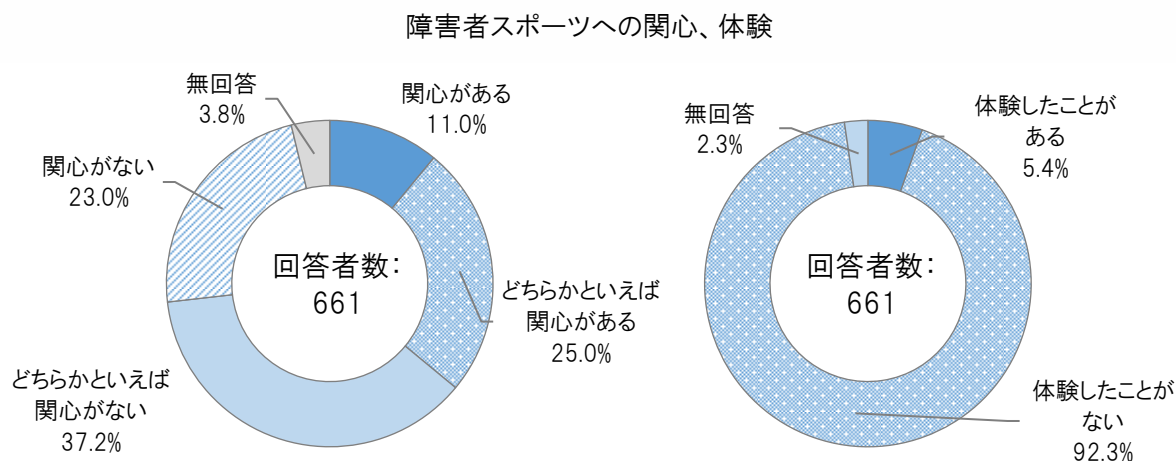


*一般市民向け調査

(7) 障害者スポーツ

ア 障害者スポーツの関わり

障害者スポーツへの関心については、関心層(「関心がある」と「どちらかといえば関心がある」の合計)が36.0%、無関心層(「どちらかといえば関心がない」と「関心がない」の合計)が60.2%となっています。また、障害者スポーツへの経験については、「体験したことがない」が92.3%の一方、「体験したことがある」は5.4%にとどまっています。



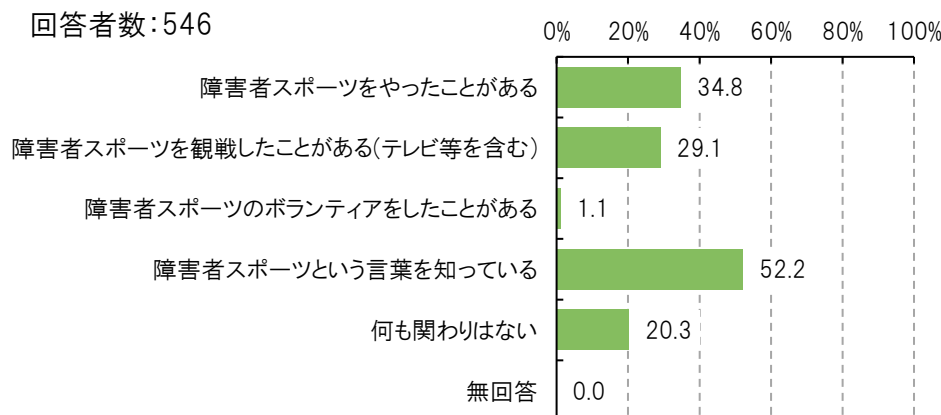
体験したことがない理由

順位	項目	割合
1位	身近に障害者スポーツに関わっている人がいないから	39.5%
2位	障害者スポーツを身近な場所でやっていないから	29.5%
3位	特に理由はない	28.4%

*一般市民向け調査

一方で、子どもは「障害者スポーツをやったことがある」が34.8%となっており、障害者スポーツに関わってみた際の気持ちとして「楽しかった、感動した」(19.1%)が最も高く、次いで「もっと知りたくなった」(18.2%)、「障害者や障害、障害者スポーツへのイメージが変わった」(14.9%)となっています。

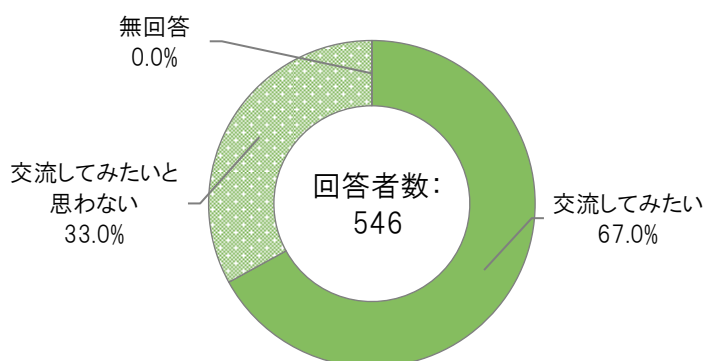
障害者スポーツへの関わり



*児童・生徒向け調査

また、スポーツを通じた障害のある人との交流意向についても、「交流してみたい」が67.0%と高くなっています。

スポーツを通じた障害者との交流意向

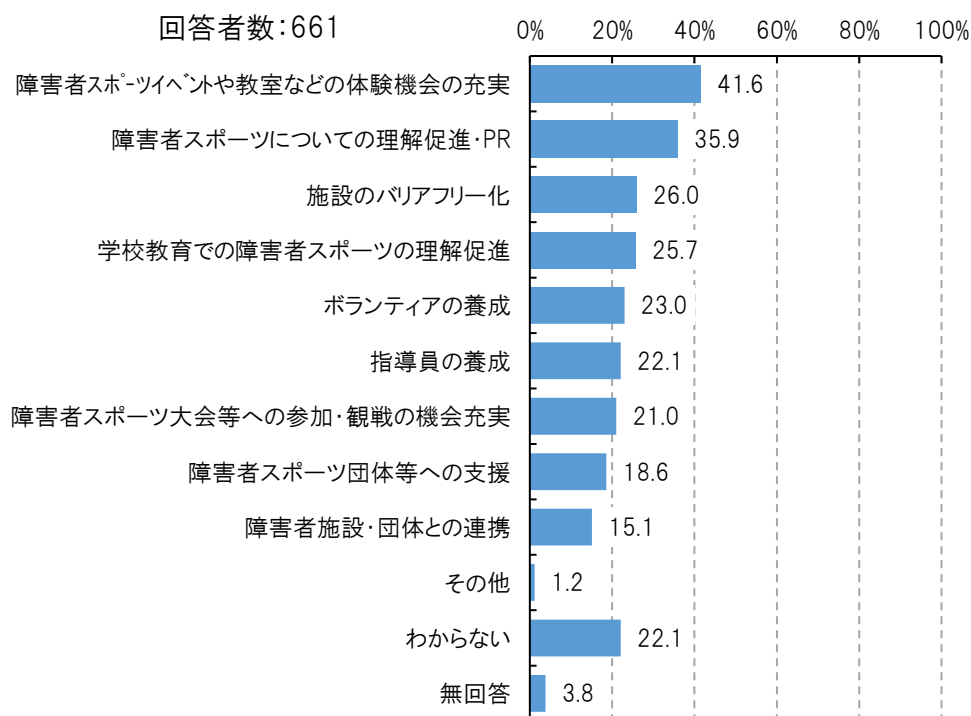


* 児童・生徒向け調査

イ 障害者スポーツを実施しやすくするために必要な環境

障害のある人がスポーツを実施しやすい環境をつくるために必要な取組をみると、「障害者スポーツイベントや教室などの体験機会の充実」(41.6%)が最も高く、次いで「障害者スポーツについての理解促進・PR」(35.9%)となっています。

障害者スポーツを実施しやすくするために必要な環境



* 一般市民向け調査

(8) スポーツ環境

ア スポーツ指導者に求める資質

スポーツ指導者に求める資質として、子どもでは「スポーツそのものの楽しさを教えてくれる」(57.1%)が最も高く、一般市民でも「スポーツの意義・価値・楽しみ方を伝えることができる人」(57.8%)が最も高くなっていることから、子どもからも、一般市民からも、スポーツの楽しさや楽しみ方を教えてくれる人が求められています。

また、子どもでは「良いところをほめてくれる」(46.0%)、「上手くなるための技術や知識を教えてくれる」(37.9%)、「個々の能力、性格に合った方法で教えてくれる」(20.9%)など技術を高めてくれる指導力も重視しています。

そのほか、一般市民では「暴力やハラスメントを行使・容認せず、プレーヤーの権利や尊厳、人格を尊重できる人」(29.2%)も求められています。

スポーツ指導者に求める資質

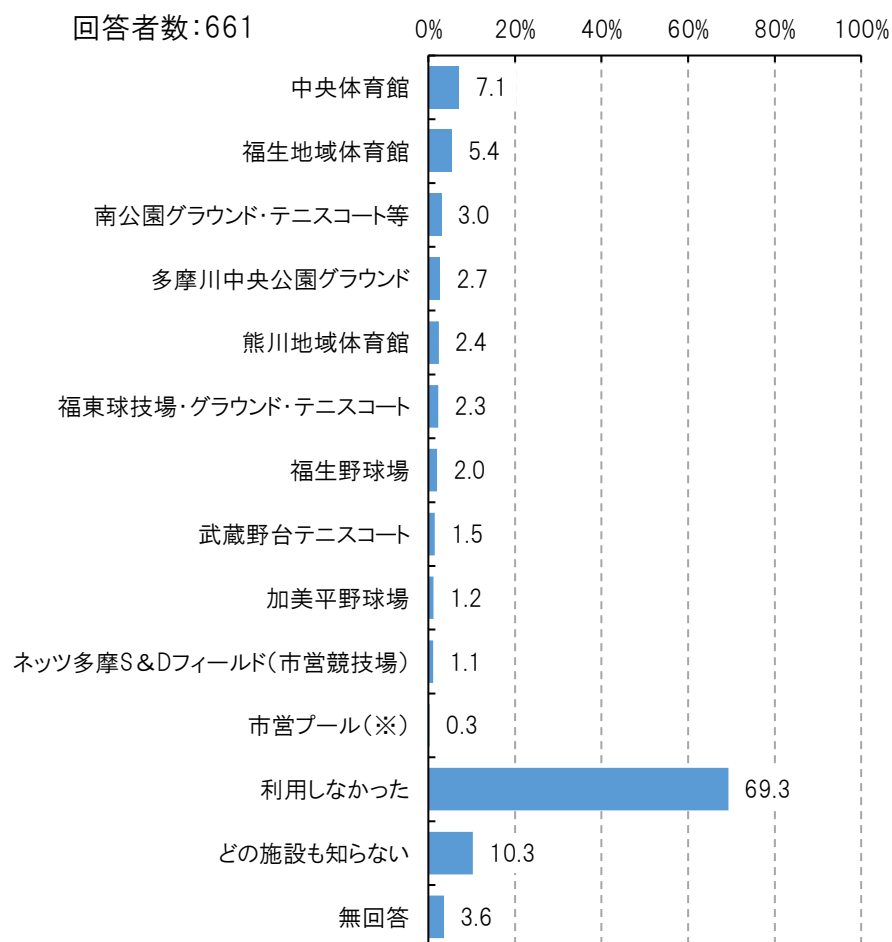
順位	子どもが求める資質 (回答者数:546)	割合	一般区民が求める資質 (回答者数:661)	割合
1	スポーツそのものの楽しさを教えてくれる	57.1 %	スポーツの意義・価値・楽しみ方を伝えることができる人	57.8 %
2	良いところをほめてくれる	46.0 %	暴力やハラスメントを行使・容認せず、プレーヤーの権利や尊厳、人格を尊重できる人	29.2 %
3	上手くなるための技術や知識を教えてくれる	37.9 %	プレーヤーの人的成長にも配慮して指導することができる人	28.0 %
4	個々の能力、性格に合った方法で教えてくれる	20.9 %	年間をとおして定期的に指導ができる人	19.4 %
5	話を聞いてくれる	19.4 %	プレーヤーと一緒に成長したいという姿勢をもつ人	16.9 %
6	考える力をつけてくれる	16.7 %	指導を通じて豊かなスポーツ文化の創造やスポーツの社会的価値を高めることができる人	16.0 %
7	目標を一緒に考えてくれる	11.0 %	指導力を高めるために学び続けることができる人	15.3 %
8	スポーツを続けられるようにサポートしてくれる	8.2 %	指導に関する資格を持っている人	12.3 %
9	スポーツマンシップやマナーなどを教えてくれる	7.9 %	スポーツイベント(大会や教室など)の企画や運営を手伝うことができる人	6.5 %
10	スポーツと勉強や家のことの両立など、生活のバランスもアドバイスしてくれる	7.7 %	その他	2.1 %

*一般市民向け調査、児童・生徒向け調査

イ 市のスポーツ施設の利用状況

スポーツや運動をするための、過去1年間の市のスポーツ施設の利用の有無について、「利用しなかった」(69.3%)が最も高く、次いで「どの施設も知らない」(10.3%)、「中央体育館」(7.1%)となっています。

過去1年間の市のスポーツ施設の利用状況

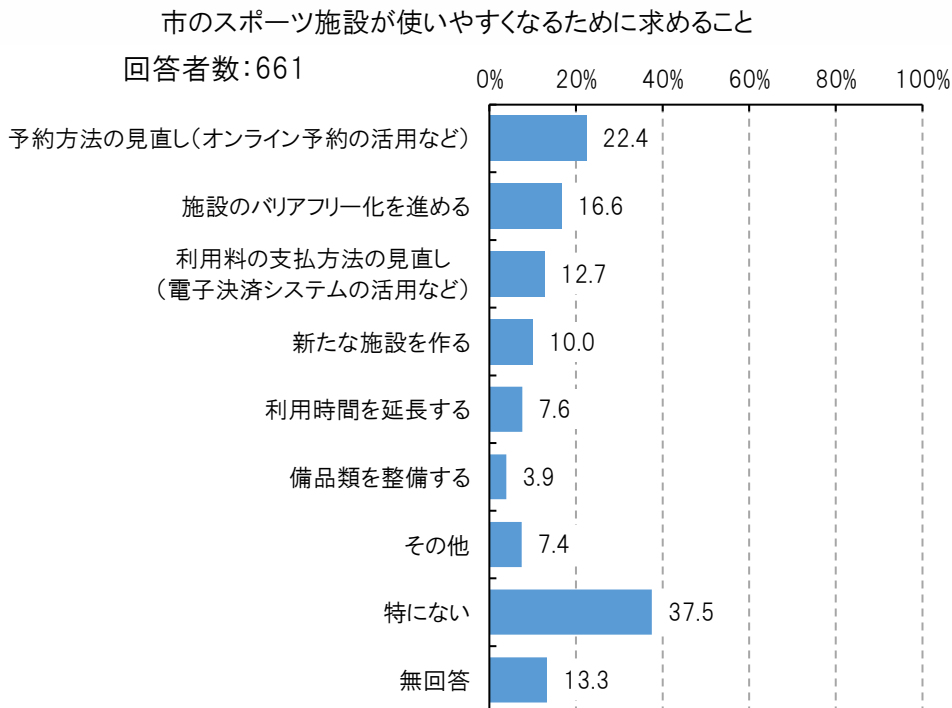


※市営プールは新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、休場。

*一般市民向け調査

ウ 市のスポーツ施設が使いやすくなるために求めること

市のスポーツ施設が使いやすくなるために求められることとして、「予約方法の見直し(オンライン予約の活用など)」(22.4%)が最も高く、次いで「施設のバリアフリー化を進める」(16.6%)、「利用料の支払方法の見直し(電子決済システムの活用など)」(12.7%)となっています。

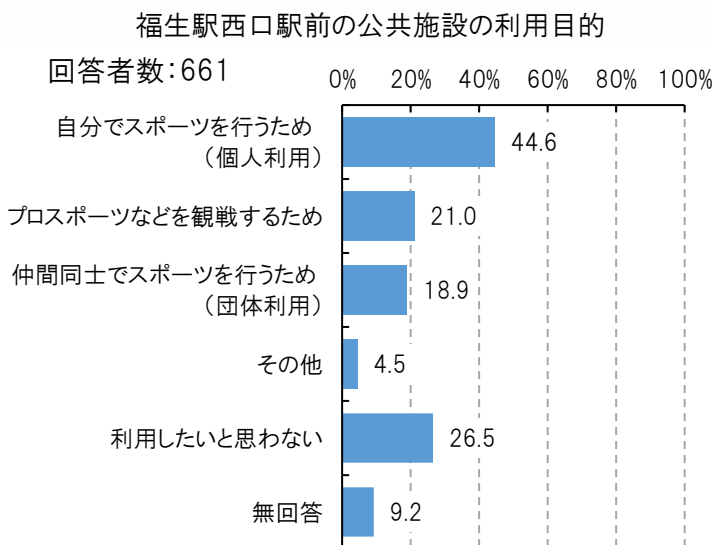
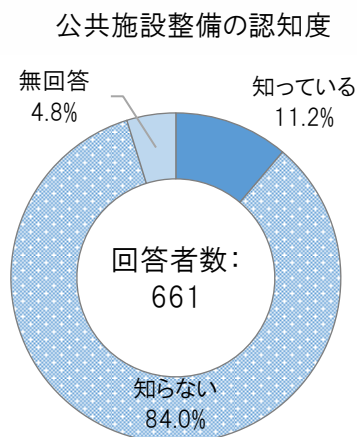


*一般市民向け調査

エ 新しいスポーツ・アクティビティ機能をもつ公共施設の整備について

福生駅西口駅前にスポーツ・アクティビティ機能をもつ公共施設が整備される計画について、「知っている」が11.2%となっています。

また、その施設をどのような目的で利用したいかについて、「自分でスポーツを行うため(個人利用)」(44.6%)が最も高く、次いで「プロスポーツなどを観戦するため」(21.0%)、「仲間同士でスポーツを行うため(団体利用)」(18.9%)となっています。



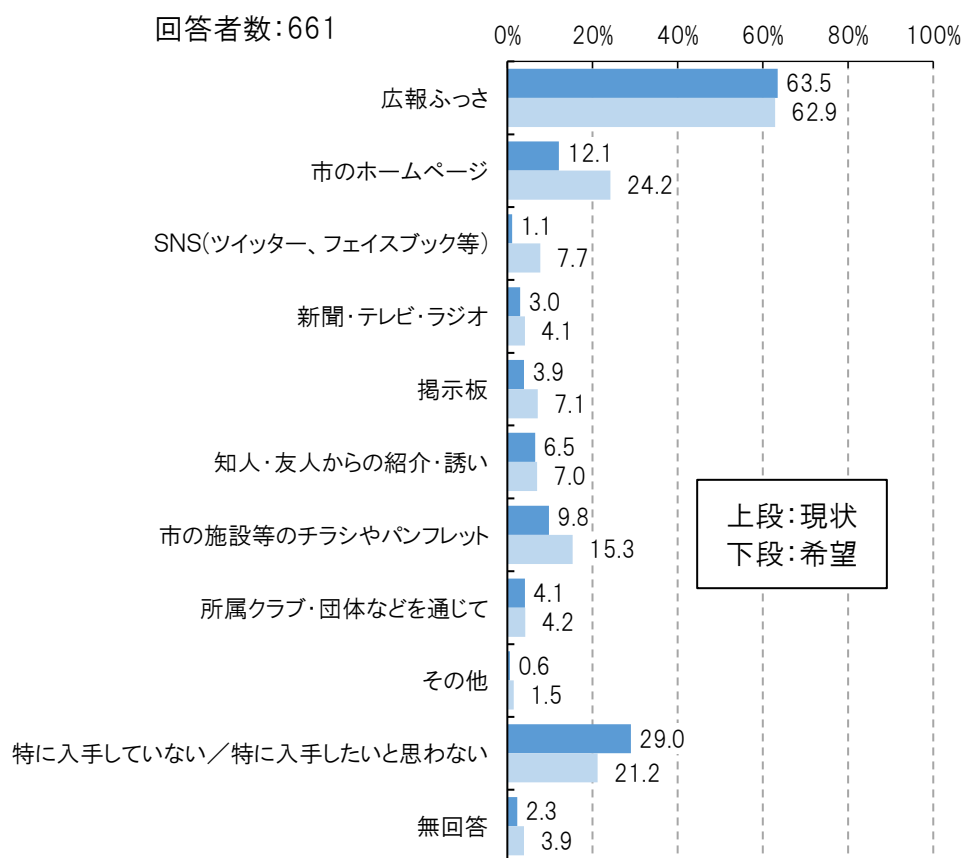
*一般市民向け調査

(9) 市のスポーツや運動に関する情報

市のスポーツや運動に関する情報の入手方法の現状は「広報ふっさ」(63.5%)が最も高く、次いで「市のホームページ」(12.1%)、「市の施設等のチラシやパンフレット」(9.8%)となっています。それに対し、希望する入手方法は「広報ふっさ」(62.9%)が高いのは同様ですが、「市のホームページ」(24.2%)、「市の施設等のチラシやパンフレット」(15.3%)、「SNS*(ツイッター、フェイスブック)」(7.7%)が現状と比較して5ポイント以上差があります。

また、入手したい情報の内容として、「スポーツ教室・講座の情報」(35.7%)が最も高く、次いで「健康づくりに関する知識や情報」(32.8%)、「スポーツ競技大会やイベント情報」(22.2%)となっています。

市のスポーツや運動に関する情報の入手方法

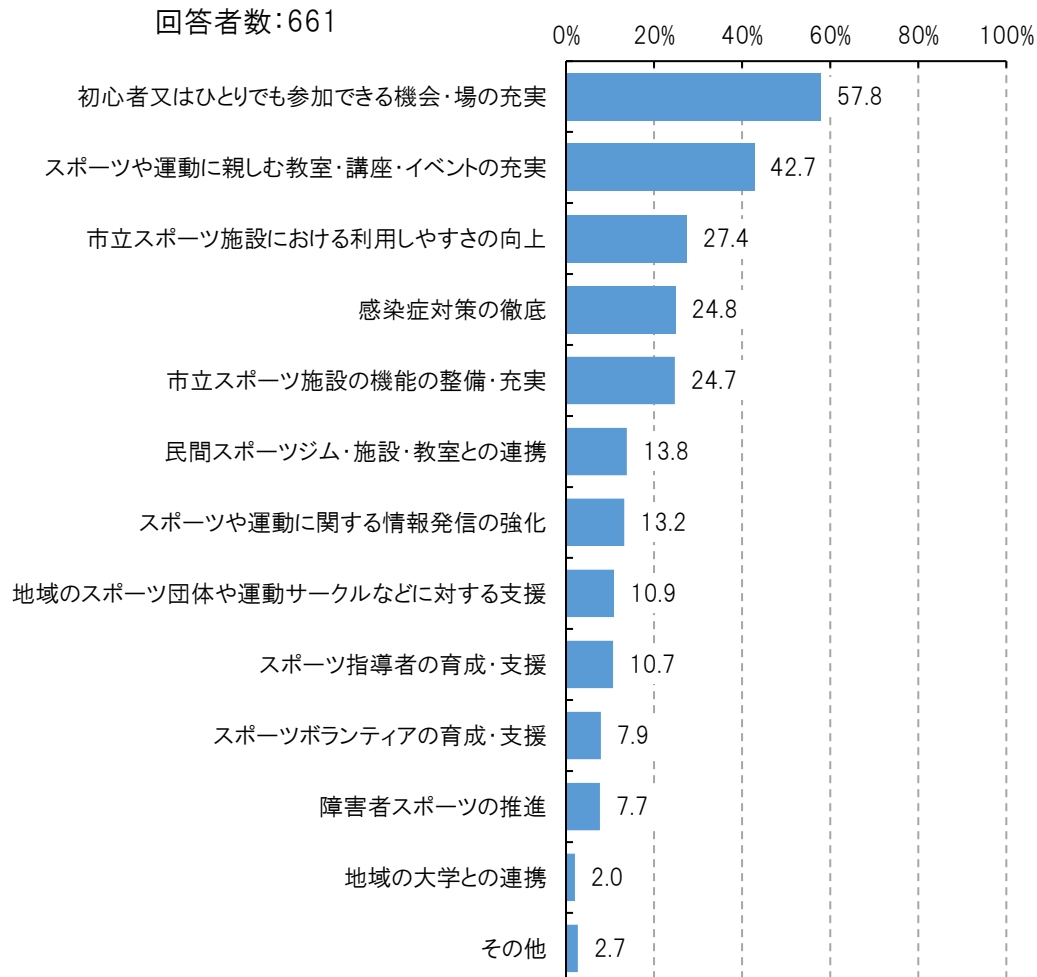


*一般市民向け調査

(10) 今後力を入れるべき取組

市がスポーツ推進のために今後力を入れるべき取組をみると、「初心者又はひとりでも参加できる機会・場の充実」(57.8%)が最も高く、次いで「スポーツや運動に親しむ教室・講座・イベントの充実」(42.7%)となっています。

市がスポーツ推進のために今後力を入れるべき取組



* 一般市民向け調査

6 ヒアリング調査の結果

「スポーツ・運動に関するアンケート調査」に加え、より幅広く市民の声を集めるために、障害者支援団体、外国人支援団体、乳幼児の保護者を対象にヒアリング調査を実施しました。

(1) 調査概要

ア 障害者支援団体

○実施日程： 令和3年8月31日(火)
○対象者： 障害者支援団体A 職員

○実施日程： 令和3年8月 書面にて実施
○対象者： 障害者支援団体B 職員と利用者

イ 外国人支援団体

○実施日程： 令和3年8月26日(木)
○対象者： 外国人支援団体C 職員と利用者

○実施日程： 令和3年8月26日(木)
○対象者： 外国人支援団体D 職員

ウ 乳幼児の親

○実施日程： 令和3年8月26日(木)
○対象者： 子ども家庭支援センターふれあいひろば 利用者

(2) 調査結果

ア 障害者支援団体

障害者支援団体A

ヒアリング項目	ヒアリング内容
現在の運動・スポーツなどの取組について	○午前中の活動時間に散歩したり、ストラックアウトなどのボール遊びをしている。音楽療法として、リズムに乗りながら体を動かす取組も行っている。
今後、実施したい運動やスポーツについて	○日常の散歩も含めて、体を動かすことに楽しさを感じる方もそうでない方もいるため、活動することを楽しく思ってもらうことを心がけている。 ○寝たきりで過ごすなど日中に体を動かすことが少ないと、夜間に起きてしまったり、不規則な生活にもつながってしまう。運動することは最も効率的に活動できる方法である。
スポーツや運動に取り組むための機会について	○以前参加した「パラスポーツ体験教室」は、非常によい機会だった。講師を務めたプロスポーツインストラクターのサポートのもとで、ゴールボールやボッチャなどを楽しむことができた。事前の打合せから、取組状況の映像による解説など丁寧に対応してくれたため、利用者の事前対応など施設側の準備もしやすかった。
運動やスポーツをする機会を増やすために、市に求めること	○施設の職員の中でも、運動に関する専門的な知識をもっている職員がおらず、運動しようとしても何をさせたらよいかわからないことが多い。数年前に知り合いのつながりで運動指導員が来てくれた際には、利用者の様子を見て、体操や個人の身体特性を踏まえたサポート方法などをアドバイスいただき、よい機会となった。 ○施設の職員だけでは専門的な知識や技術が補えないことが多いため、定期的に理学療法士や運動指導員の派遣などの支援をしてもらえるとありがたい。

障害者支援団体B

○…職員の意見 ◎…利用者の意見

ヒアリング項目	ヒアリング内容
現在の運動・スポーツなどの取組について	○施設内では、毎朝ラジオ体操を行っているほか、歩行訓練などを行っている。 ○他施設との交流も兼ねたスポーツ・レクリエーションを月に1回実施している。(新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため令和2年度より休止) ◎外部で2か月に1度程ボッチャをしている。
今後、実施したい運動やスポーツについて	○キャッチボールやボール投げなど、ボールを使用した戸外活動を取り入れたいと考えている。 ◎東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を見たことで、野球やバスケットボールなど様々な競技に対する興味が高まった。
運動やスポーツをする機会を増やすために、市に求めること	○市民の方や健常者の方に知的障害者の理解を深めていただける取組を引き続きお願いしたい。 ◎キャッチボールのできる施設が増えるとよい。

イ 外国人支援団体

外国人支援団体C

○…職員の意見 ◎…利用者の意見

ヒアリング項目	ヒアリング内容
現在の運動・スポーツなどの取組について	<p>○学校では年間行事として、中央体育館などの施設を借りて競技大会や運動会を実施していた。その際に、体育館の利用方法なども教えている。</p> <p>○生徒個人でも、毎週、仲間同士で体育館を利用しに行っていると聞いている。利用の中で、日本人団体と試合をするなどの簡単な交流もある。</p> <p>○スポーツはやはり場所がないと続けることが難しいため、気軽に利用できる場所を求めている声は多い。</p>
スポーツや運動に取り組むための機会について	<p>○スポーツが好きで、いろいろなスポーツを楽しみたいと思っている子どもは多いため、もっと気軽にスポーツができる環境があるとよい。</p> <p>○日本でスポーツをする際の当たり前のことが、外国人にとっては難しく感じる。施設利用や参加申込みなどの手続が必要なことも苦手意識がある。</p> <p>○オンラインを取り入れたスポーツや運動などの取組については、現在、授業で積極的に活用していることから柔軟に取り入れることができると思う。</p> <p>○体育館やトレーニングルームなどを利用している外国人はいるが、市が発信している情報にアクセスできていない人も多くいると思う。</p> <p>◎予約なしで誰でも参加できるイベントがあるとよい。また、外国語でも案内してもらえるとよい。</p>
運動やスポーツをする機会を増やすために、市に求めること	<p>○外国人に対する情報発信の取組として、多言語も必要だが、「やさしい日本語」は必須である。日本に住んでいる外国人の多くが英語よりも優しい日本語の方が分かる人が多いと思う。</p> <p>◎イベントや施設の案内を外国人にも分かりやすくしてほしい。</p> <p>◎体育館の使い方が分からないため、外国人に分かりやすくしてほしい。</p> <p>◎外国語の案内を出してほしい。英語だけでなく他の言語でも書いてほしい。</p>

外国人支援団体D

ヒアリング項目	ヒアリング内容
現在の運動・スポーツなどの取組について	<p>○公共施設の体育館やトレーニングルームは利用している学生もいる。</p> <p>○学校では、年間行事として近隣のスポーツ施設を借りて、スポーツ大会や競技大会を実施している。</p>
今後、実施したい運動やスポーツについて	<p>○体育館の利用や単発の活動はできているが、サークルなどの継続的な取組ができるとよいと思う。</p>
スポーツや運動に取り組むための機会について	<p>○外国人の学生は、日本人の友達を欲しがっているので交流の場は欲しいと思う。日本人と多くの接点をもつことで、文化や考え方への理解もできるようにあると思うので、学校としても進めたい。</p> <p>○看護師育成コースの生徒はスポーツ等を苦手な人が多いが、スポーツを通じた障害のある人と接する機会等があるとすれば、勉強にもなるため、興味もあると思う(インクルーシブスポーツ*)。</p>

<p>運動やスポーツをする機会を増やすために、市に求めること</p>	<p>○施設の利用方法やスポーツサークルの参加の方法など、外国人でも分かりやすい情報提供をしてもらえるといい。</p> <p>○外国人でも参加しやすいスポーツの取組があれば参加したいという人は多いと思うが、情報がない。外国人に情報発信をするためには、従来の方法では届かない。学校を通じて、生徒に情報を提供する協力もできると思う。</p>
------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

ウ 乳幼児の親

ヒアリング項目	ヒアリング内容
<p>現在の保護者自身とお子さんの体操や運動・スポーツなど体を動かす取組について</p>	<p>○幼稚園に通っている上の子どもの送迎を終えたついでに、1歳の子どもと毎朝1時間ほど散歩をしている。</p> <p>○子どもを公園に連れて行くなど、体を動かす遊びは意識している。</p>
<p>今後、保護者自身とお子さんが実施したい運動やスポーツについて</p>	<p>○あまり高い料金のものではなく、気軽に参加できる教室があるとよい。中央体育館などでも実施しているようだが、開催の量や回数を増やしてもらい、こまめに情報発信をしてほしい。広報などは目を通して見ているが、見逃してしまうことも多い。写真なども掲載しながら、活動の様子なども紹介してもらえると参加しやすくなる。</p> <p>○教室などに通うというよりも、遊びの中で体を動かすことを取り入れたい。</p>
<p>保護者自身とお子さんがスポーツや運動に取り組むための機会について</p>	<p>○託児付きの教室等だと参加してみようと思える。時間は1時間程度で、体を動かすことはもちろん、親も子ども仲間づくりの場になる機会が望ましい。</p> <p>○平日の午前中に参加できるものがよい。9時半から11時の時間で開催してもらえるとよい。</p> <p>○プールに行きたいが、市内に行きやすい屋内プールがない。民間のプールの会員になると定額料金が高く、数も少ない。</p>
<p>保護者自身とお子さんが運動やスポーツをする機会を増やすために、市に求めること</p>	<p>○子ども向けの教室はあると思うが、乳幼児向けの教室であれば対象年齢を1歳刻みで示してほしい。自分の子どもよりも小さい子どもが参加している場合、その子どもを傷つけたりしないか不安になってしまう。発育・発達段階が同じくらいの子どもの集まる場であれば参加してみたい。</p> <p>○託児サービスがついて、大人だけで参加できる教室があるとよい。</p> <p>○福生市は公園が多く、子どもを遊ばせるのに重宝しているが、ごみが多い。遊ばせやすい公園ほど、ごみが落ちていることが多く、何でも口に入れてしまう子どもを遊ばせることができず、ほかの公園に移動せざるを得なくなる。環境整備に力を入れてほしい。</p>

7 福生市のスポーツに関する課題

社会情勢や政策動向の変化、本市のスポーツ環境や市民のスポーツ活動の実態等を踏まえ、以下のとおり4つの視点で課題を整理しました。

第1に、スポーツを「する」と「みる」ことは、スポーツの楽しさを経験する入口となりやすく、スポーツに親しむ市民を増やすためには重要な活動です。市民のスポーツに対する関心や興味を高め、継続的に親しむ意識を定着させるためにも、「する」と「みる」の視点を包括した課題を「**スポーツの参加に関する課題**」としました。

第2に、本市は人口減少、少子高齢化が進展しており、以前から本市のスポーツ環境を支えてきた関係者や関係団体においても高齢化が進んでいます。これまで築いてきたスポーツ環境を維持し、より強固なものにするためにも、新たな担い手の発掘・育成と既存の担い手が安定的に活動できる体制づくりの視点による課題を「**スポーツ活動を支える人材と団体の課題**」としました。

第3に、前計画においても施策体系の柱の一つとして力を入れてきたスポーツ施設の整備について、本市のスポーツ施設が老朽化する中、その有効活用と機能維持が求められる一方で、福生駅西口地区にスポーツ機能も含む複合型施設の新設計画が策定されるなど、市民がスポーツに親しめる環境に変化が起きつつあることから、「**スポーツ実施の場の課題**」としてまとめました。

第4に、新型コロナウイルス感染症の影響や東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を受けて、人と人との交流を促し、地域の一体感や活力を醸成するスポーツの意義が再確認されたとともに、新しいスポーツのあり方や楽しみ方が注目されています。これら社会情勢の変化により生じている課題を「**スポーツを通じた地域の活性化の課題**」としました。

(1) スポーツの参加に関する課題

ア 働き盛り世代や子育て世代のスポーツ実施率が低い

一般市民において、4人に3人が運動不足であると感じており、スポーツを週1日以上行っている割合は6割強となっています。これは、東京都や全国よりもやや高くなっていますが、国が第2期スポーツ基本計画で掲げる目標値(65.0%)よりは低くなっています。

また、働き盛り世代や子育て世代にあたる30～40歳代は他の年代に比べると低くなっており、仕事や家庭の状況に加え、コロナ禍にあることで、スポーツに取り組むことが難しい現状がうかがえます。

今よりスポーツを実施するようになるためには、「時間に余裕があれば」を除くと、「一緒に行く仲間がいれば」、「身近に施設があれば」、「安価に使える施設があれば」が3割台で多くなっていることから、スポーツを通じた仲間づくりの支援や施設の利用のしやすさを重視し、市民が身近にスポーツに取り組むことができる環境づくりが課題です。

イ 子どもの頃からスポーツに親しむことが必要

スポーツを好きと思う子どもは8割を超えており、男子の方が女子よりも高く、実施率や頻度も男子の方が高くなっています。

また、子どもの頃からスポーツに親しむことは、大人になってもスポーツを継続したいという意識を育むことから、将来の実施率も見据えて、子どもの頃から継続的に親しむことができるような取組が必要です。

スポーツや運動を好きな度合いと、責任感や挑戦心、自己肯定感など、子どもの心身の成長に重要な要素とが関連していると考えられるため、スポーツを通じた心身の健全な発達の重要性を踏まえて、次代に向けた取組を推進することが課題です。

ウ スポーツ観戦機会の充実

過去1年間のスポーツの観戦について、会場で直接観戦した人の割合は1割未満と少なくなっていますが、8割弱の人がスポーツを観戦している状況です。

また、地域の大会や試合の観戦状況について、観戦した人は約2割と少なくなっていますが、今後の観戦意向としては、半数以上の人観戦したいと回答しています。

スポーツ観戦は、スポーツに対する関心や興味を高めることはもちろん、地域での観戦機会が増えることによって、スポーツをする人とみる人、支える人などスポーツに関わる様々な人々も増えていくことが期待されます。一方で、スポーツをする人にとっても、意欲やパフォーマンスの向上につながるため、市民が参加する身近な試合からプロスポーツの大会なども含め、様々なスポーツに親しめる機会を増やしていくことが課題です。

エ スポーツをする人が増えるための環境整備

市内で、スポーツを実施する人が増えるために重点的に進めた方がよい施策について、「初心者又はひとりでも参加できる機会・場の充実」が6割弱、「スポーツや運動に親しむ教室・講座・イベントの充実」が4割強と多くなっています。初めてでもひとりでも、気軽にスポーツに親しむことができる環境・機会を充実していくことが課題です。

オ 障害者スポーツの取組

障害者スポーツについて、関心層は3割半ばとなっており、体験したことがある人も1割未満にとどまっています。体験したことがない理由としては、身近に障害者スポーツに関わっている人がいないことやメディアで触れる機会が少ないことなどが多く、これまで関わる機会がなかったことが挙げられます。

一方で、子どもたちは障害者スポーツを体験したことがある人が4割弱と一般市民に比べて多くなっており、スポーツを通じた障害のある人との交流意向も7割弱となっています。

市では、障害者スポーツの理解を促進するために、体験や観戦、ボランティアの機会を創出するブラインドサッカーの取組などを進めており、まだ認知度は1割未満と低いものの、4割弱の人が継続してほしいと考えています。

障害者スポーツイベントや教室などの体験機会の充実や障害者スポーツについての理解促進・PRなどを進めることにより、障害の有無にかかわらず、スポーツを楽しむことへの理解を深めていくことが課題です。

カ 障害のある人のスポーツの実施状況

障害者支援施設においては、歩行訓練や運動を兼ねた散歩を基本として、利用者個人の個性に合わせたボール遊びやボッチャなどの障害者スポーツに取り組んでいる状況です。

日中の様々な活動が規則的な生活リズムを整えることにつながり、特に運動はもともと効率的に活動できる方法であるとともに、運動機能を維持することは脳の働きにもよい効果が見られるということでした。

しかしながら、障害者支援施設では運動に関する専門的な知識をもっている職員がいない場合もあり、また、個々の状況に合わせた対応についての知識も必要になるため、定期的に運動指導員等を派遣するなどの支援が求められています。

障害のある人が日常的にスポーツに親しむことができるように、施設のバリアフリー化、スポーツ指導者の支援、障害者スポーツイベントや交流の機会など、障害のある人がスポーツに取り組むための支援と市民の理解を合わせて推進していくことが課題です。

キ 外国人のスポーツの実施状況

本市は、総人口に占める外国人の割合が 6.0%(令和4年1月時点)と都内でも多くなっています。市内に在住、在学等している外国人やその関係者によると、市立のスポーツ施設や屋外において個人や団体などで日常的にスポーツや運動を行っているものの、施設の予約などの利用方法が難しかったり、スポーツに関するイベントの情報を受け取れていないために、十分に取り組むことができていないということです。

日本人と同様、スポーツに親しみたいと考えている人が多いことから、スポーツ施設やスポーツイベントについて、やさしい日本語も含めた多言語案内や情報発信などを推進するとともに、スポーツを通じた交流イベントなど、外国人も含めて参加しやすい機会を増やしていくことが課題です。

(2) スポーツ活動を支える人材と団体の課題

ア 指導者の育成

スポーツ指導者に求める資質として、一般市民、子どもに共通してスポーツの楽しさや楽しみ方を教えてくれる人が求められています。また、子どもでは、技術を高めてくれる指導力や良いところをほめてくれること、個々の能力に合った方法による指導など、技術や能力の向上に関することも重視しています。

特に子どもにとっての指導者は、子どもたちの意欲、体力・技術の向上に大きく影響すると考えられるため、技術はもとより、指導の分かりやすさや考え方、サポート力など様々な資質が求められています。

イ ボランティアの人材育成と活躍

過去1年間のスポーツボランティア実施率は約1割となっており、東京都より低く、全国と同水準となっています。今後の実施意向として、3割弱の人がスポーツや運動を支える活動をしてみたいと考えており、活動内容として、「大会やイベント会場での選手やチームの応援」、「教室・大会・イベントの運営や補助」が上位となっています。

スポーツボランティアを増やすための環境として、「機会、きっかけがあれば」、「短時間でも行える活動があれば」、「ひとりでも参加しやすい活動があれば」が上位となっており、気軽に参加できる機会があれば、スポーツを支える人材が増えていくことが期待されます。

ウ スポーツ団体や組織間の連携強化

スポーツに親しむ団体を増やし、より充実した活動を実践できるようにするには、市内で活動する団体等や組織を支援するとともに、団体同士の連携をさらに強化する必要があります。

また、多くの市民がスポーツをする機会を享受できるように、まちづくりやコミュニティ、高齢者、障害のある人、子育てや健康福祉など、関係する庁内組織、民間事業者、教育機関、地域団体などとの連携が課題です。

(3) スポーツ実施の場の課題

ア スポーツ施設の利用促進

過去1年間の市のスポーツ施設について、利用しなかった人が約7割となっており、どの施設も知らない人が約1割となっています。市のスポーツ施設の機能の整備・充実や利用のしやすさの向上が求められており、市民誰もが広く利用できる場所として、また、市民のスポーツ活動の機会を促す場として、適切に管理・運営していくことが重要です。

また、市のスポーツ施設が使いやすくなるためには、予約方法の見直し(オンライン予約の活用など)や施設のバリアフリー化、利用料の支払方法の見直し(電子決済システムの活用など)について検討することが課題です。

イ スポーツ施設の整備

近い将来、福生駅西口駅前にスポーツ・アクティビティ機能(スポーツをはじめとした様々な活動のできる場)をもつ公共施設が整備される計画の認知度は1割強となっています。

利用目的としては、個人利用が4割半ば、団体利用が約2割となっており、プロスポーツなどの観戦も2割強あり、期待されていることがうかがえます。

(4) スポーツを通じた地域の活性化の課題

ア スポーツイベントの実施

市内でスポーツを実施する人が増えるために重点的に進めた方がよい施策では、「初心者又はひとりでも参加できる機会・場の充実」が6割弱、「スポーツや運動に親しむ教室・講座・イベントの充実」が4割強と多くなっています。

スポーツへの関心や興味を高めるため、市内でスポーツ活動をする人々の交流や参加拡大、市のスポーツ推進の取組周知など、地域の特性や地域資源を生かした多くの市民が参加できるイベントを開催することにより、スポーツへの参加を促す取組を推進していくことが課題です。

イ スポーツに関する情報発信

市のスポーツや運動に関する情報として、「スポーツ教室・講座の実施」、「健康づくりに関する知識や情報」が多く、日常的にスポーツに取り組むためのニーズが多くなっています。情報の入手経路は6割強で「広報ふっさ」が多くなっていますが、希望する入手経路としては、市のホームページや市の施設などのチラシやパンフレット、SNS(ツイッター、フェイスブック等)も多いことから、様々な媒体を効果的に活用して発信していくことが必要です。

ウ 新型コロナウイルス感染症拡大の影響

新型コロナウイルス感染症によるスポーツや運動への影響については、半数近くの人が変わらなさと回答しているものの、3割半ばの人は機会が減ったと回答しています。

一方で、影響前から実施していたスポーツや運動の機会が増えたり、異なるスポーツや運動を始めた人は合わせて1割未満となっています。また、動画配信サイトの情報やゲーム機器を利用して自宅でできるトレーニングを開始したり、ジョギングなどの人ごみのない場所で運動したり、電車通勤から自転車通勤に変えるなど、新たな運動習慣を身に付けている人も一定数いました。

本計画を推進する上で、新型コロナウイルス感染症の影響下はもちろんのこと、収束後の社会情勢も見据えて、様々な状況においても、市民がスポーツや運動に積極的かつ継続的に取り組むことができるよう、効果的な施策の展開が求められます。同時に、スポーツを通じた地域社会の活性化についても考えていかなければなりません。

エ オンラインなどICTを活用したスポーツの取組

オンラインによるスポーツ・運動の実施への参加意向について、3割弱の人が参加してみたいと回答しています。

しかしながら、オンラインに興味がありながらもインターネット環境がない、インターネット機器の操作が分からない人が1割強いることが分かりました。ICTを活用したスポーツの取組を進めるためには、公民館主催講座等と連携して、パソコン等の操作についての市民向け講座の開催など、デジタルデバインド*対策も合わせて取り組むことが必要です。

